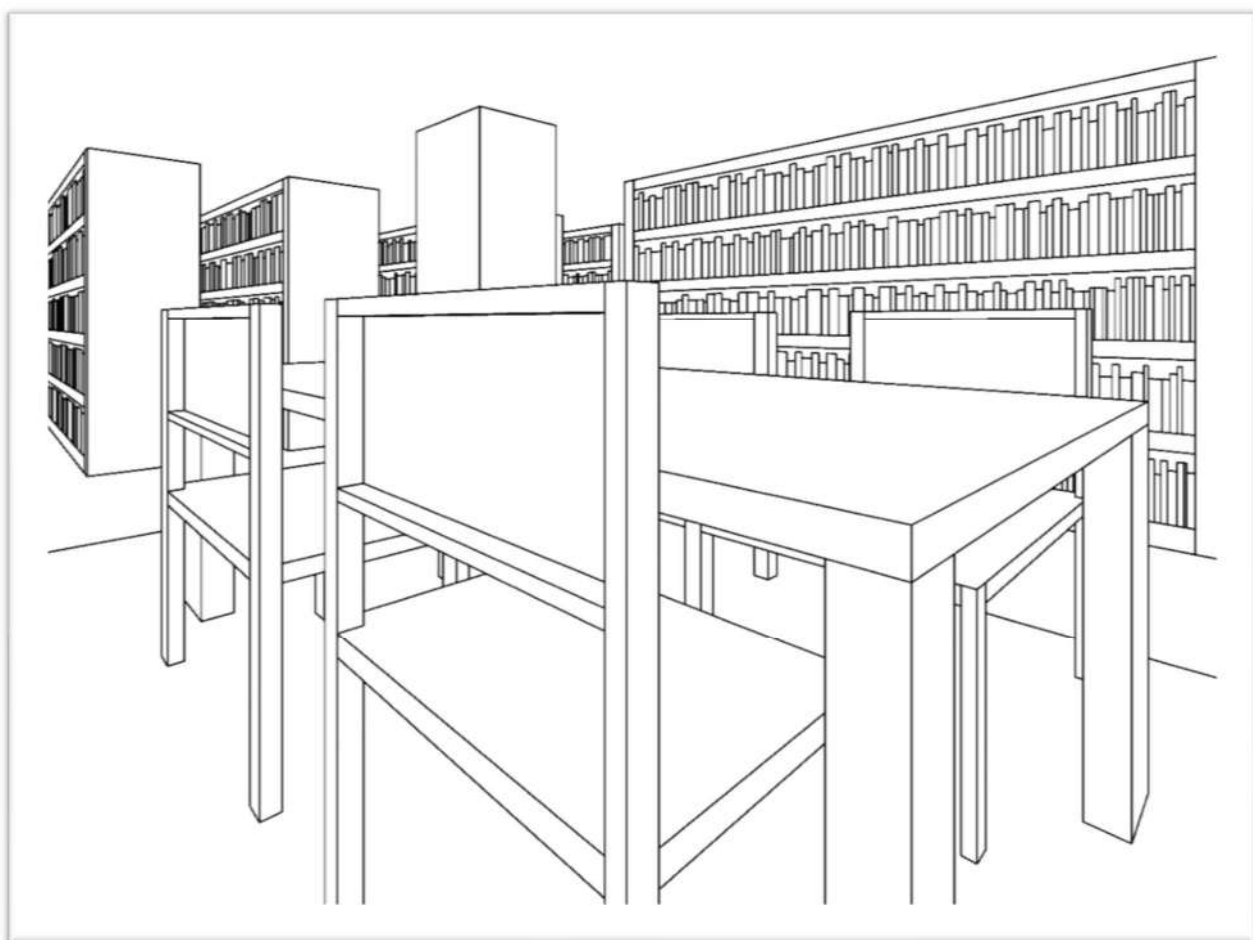


なんでも総合研究所編

# 現代の若者に薦める

## 105 冊



広島大学ではどうにかして大学生の読書量を増やそうと取り組んでいる様で、各図書館に「広大生のための123冊」や「名著との対話」というコーナーがあったり、少し前ですが「大学新生に勧める101冊の本」という書籍を出したりしています。しかし、当会員の体感ではあまり効果を挙げているとは思いがたい(もちろん普段から図書館に行く人は興味をもって見ている様ではあります)。考えられる理由としてはやはり「小難しい」に尽きそう。取り上げられている書籍はどれも名著といわれているものではありますが、敷居が高い印象がぬぐえていないのではないのでしょうか。

ということで、学生目線で先ほどのガイドの補完をするようなものが作れないか、という発想のもとで各会員におすすめ本を選んでもらいました。児童文学の名作から量子力学の専門書まで、紹介している書籍は利便性を考えて面倒な手続きがいない図書館の開架または書庫所蔵のものだけに絞ったので、気軽に興味を持ったものを読んでもらえればと思います。

## ～目次～

### 未知の世界 … p. 4

コラム：選評(メルヘン小説編)／「新本格」のススメ

### 社会の視点 … p.12

コラム：選評(芥川賞受賞作品編)／22世紀のファンタジー

### 探求の方法 … p.22

コラム：選評(理工書編)／選評(異端編)／数学小説アンソロジーを編んでみた

### 人生の思索 … p.32

コラム：朝井リョウ作品、紹介するってよ／森見登美彦作品の主人公はめちゃくちゃカッコいい

### おまけ … p.46

- ・読みたい本がなかった時は… 図書館篇／書店篇
- ・読みつぶしリスト

## ～執筆者紹介～



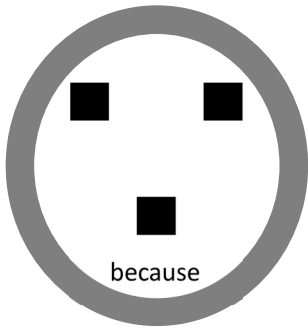
### はかせ(26)

量子物質科学専攻です

物理を勉強してます 理論の研究者になりたい

小説を読むのも好き

村上龍の小説が特に好き



### pn675(26)

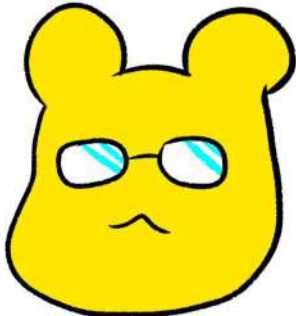
総科→理学研究科数学専攻

頭を使うことが好き なにより設備投資がいらない!

活字中毒?

ファンタジー・SF・ミステリ・その他なんでも OK

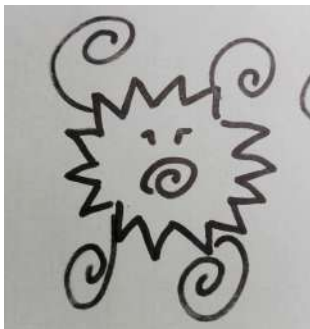
休日は隔週で一日かけて中古書店巡り



### T(28)

法学部です

社会の風習の雑学に興味があります



### ロードジャスティス(26)

総科生

模範的総科生なので(?)ゾーンは広いが話は浅い

アニメとかの感想を書きます

旅行もすき

温泉に浸かったり野宿したりしましょう



## 瀬戸内れもん(27)

理学部化学科 所属

分子レベルで現象を理解したい。

生命活動も化学反応の連続！

「青春は爆発だ！」

好奇心の赴くままに、人生の夏休みを謳歌しています。



## うるちゃん(26)

心理学専攻です

人の行動や考え方について色々考えるのが好き！

アニメや漫画大好きです

心理学と絡めて鑑賞するととても面白い！



## 形作り(30)

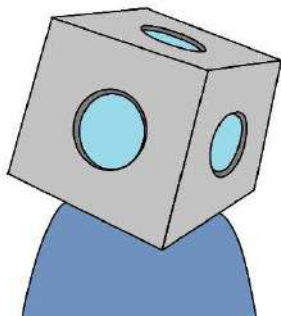
情報科学部所属

セイバーメトリクスに憧れる！（野球好きなので）

推理小説,将棋も好き！

伊坂幸太郎,麻耶雄嵩作品をよく読みます。

将棋は観るのも指すのも好きです。（弱いけど）



## W 田(01)

工学部第一類

モノづくりが好きです

機械いじりが好き

最近考えてばかりで手が付けられてないです…。

# ～未知の世界～

文学、数学、言語学、情報科学、民俗学、統計学、化学、文化人類学、生物学、哲学、物理学、量子力学、…それぞれの執筆者がおすすめの入門書を集めました。一冊ごとに新たな世界が開けるでしょう。

## 「単純な脳、複雑な「私」」(池谷裕二)

西図書館 3階・小型 491.37/I-33

日本の脳研究者である池谷裕二氏が母校の高校生と最先端の脳科学を対話形式で語り合う。「一番思い入れがあって、一番好きな本」と著者自らが語る知的興奮に満ちた一冊。内容も丁寧に説明しながら分かりやすくかつ話の中へ没入してしまうような面白さがあります。(W田)

---

## 「多面体の折紙」(川村みゆき)

中央図書館 2階 754.9/Ka-95

正多面体位なら知っている方も多いただろうが、準正多面体(アルキメデスの立体)、それらの双対となってくると知らない人が多いかもしれない。多面体を見るだけなら今あげたその先の星型多面体、一様多面体、それらの双対まで載っている書籍も存在するが、この書籍の特徴は紙を折ることで"実際に作れる"という所である。実際に手に取ってみれば理解も捗るはずだ。(pn675)

---

## 「哲学用語図鑑」(田中正人)

西図書館 2階・開架 130/Ta-84

抽象的で初学者にはハードルの高い(と一般的には思われる)哲学用語を図つきで解説した哲学の入門書。高校の倫理用語を網羅的にカバーしており、図もポップで分かりやすい。「哲学に興味はあるけど小難しそうで何から読めばいいかわからない」という人に薦めたい良書。(形作り)

---

## 「西洋護符大全」(L.クリス=レットンベック, L.ハンスマン)

中央図書館 2階 387/Kr-5

護符とは頂上のものの力を借りることを目的にして記号や図相が記された物体のことである。ヨーロッパで伝わる様々な護符を紹介しながらその護符が持つ文化的な背景や歴史を解説している。(T)

「ツチノコの民俗学」(伊藤龍平)

中央図書館 2 階 388.1/I-89

江戸時代に妖怪として伝わっていたツチノコが戦後未確認生物として世間を騒がせやがてはマスコットや町おこしの題材として扱われていく過程を描いている。(T)

---

「統計学図鑑」(栗原伸一, 丸山敦史)

西図書館 3 階・開架 417/Ku-61

広い範囲の統計用語、統計的手法がイラスト、図付きで分かりやすく紹介されている。Excel の説明や R のコードも載っており実践性も兼ね備えている。厳密性や専門的な内容はあまり述べられてはいないが、統計を学ぶ入門書に適した本だといえる。(形作り)

---

「言語学の教室」(西村義樹, 野矢茂樹)

西図書館 2 階・小型 801/N-84

「雨に降られた」は成り立つが「財布の落ちられた」という表現に違和感を感じるのはなぜか。認知言語学という視点から言語と物の見方の関りを追求する一冊。(T)

---

「世界で一番美しい元素図鑑」(サイモン・クェレン・フィールド, セオドア・グレイ)

西図書館 2 階・大型 431.11/G-79

元素の純粋な状態、およびその用途・使用例を、数々の美しい写真で掲載した 118 元素の解説書である。「元素図鑑」と銘打った書籍はよく見かけるが、ここまでビジュアルにこだわった元素図鑑は他に見たことない。この世界を構成する元素の魅力を余すところなく紹介し尽くしている。ページをめくる際に指紋をつけることすら躊躇(ちゅうちょ)するほど圧倒的な迫力に、自分も“元素マニア”を目指そうかと思ってしまうほどである。(瀬戸内れもん)

---

「曲線の事典」(磯田正美ほか)

中央図書館 2 階 414.12/I-85

学校で習う曲線と言えば円、放物線、三角関数、…と様々だが、それらに限らず方程式で表される曲線全般についてその特性と“アナログ”な作図法を解説している。一度でも描画ソフトでグラフを描いたことがある方なら、グラフは些細なパラメータに変化によって様々な変化をみせる表情豊かなものだとわかるだろう。それらの作図器を組み立て、実際に描いてみるのはとても面白い。(pn675)

### 「ビックリするほど素粒子がわかる本」(江尻宏泰)

西図書館 3 階・開架 429.6/E-41

題名とは裏腹に何回か読み込まなければ理解が難しい本です。しかしそれゆえ分からない箇所を想像してみたり用語を調べたりしながら少しずつ理解していくと、素粒子という身近にありつつも遠い存在に知的好奇心が駆られ、読み込めるものとなっていると思います。(W 田)

---

### 「奇っ怪建築見聞」(水木しげるほか)

中央図書館 2 階 388.1/N-71/6

1927 年から 1936 年ごろまで、ある一人の地主の男が憑りつかれたように作った何とも奇妙な建物、二笑亭が取り上げられています。水木しげるが描くおどろおどろしくも気の抜けたような解説漫画により、かなりクレイジーな二笑亭の主、渡辺金蔵の心情や思想に親しみを持って触れることができます。(うるちゃん)

---

### 「ライフゲームの宇宙」(ウィリアム・パウンドストーン)

中央図書館 2 階 007.64/P-86

縦横に区切られたマス目ごとに 0 か 1 の値があり、1 ステップごとに周りの縦横斜めの 8 マスの値の和によって次の値を計算することで生命をシミュレーションするライフゲームだが、その単純な規則からは想像もつかないほど多様な"物体"が出現し、画面いっぱいに広がるそれはまさしく"宇宙"である。この書籍にはライフゲームのみならず熱力学、情報理論、ビッグバンや自己複製との関わりまで多様な話題が載った興味深い本だ。(pn675)

---

### 「フューチャー・イズ・ワイルド」(ドゥーガル・ディクソン, ジョン・アダムス)

西図書館 2 階・開架 467.5/D-79

「三大生物系奇書」の一つである「アフター・マン」の著者が多くの科学者とともに更に詳細な検討を加え、現在の地球から(環境は変化せずに)人類だけが消滅した場合どのような生物の進化が起こるか予想した作品。500 万年後、1 億年後、2 億年後の 3 つの時代を検討しており、予想される地形や生物がリアルな CG で描かれている。実際にこの書籍通りに生物が進化するかはわからないが、未来の一つの形としてとても興味深い。(pn675)

---

### 「白と黒のとびら」(川添愛)

西図書館 3 階・開架 007.1/Ka-98

世界の構造にオートマトンを置いたファンタジーで、個人的には数学小説の最高峰だと思う作品。終盤にはチューリングマシンが出てきて、次作「精霊の箱」では更に現代的なコンピュータの構造や RSA 暗号まで話が進む。情報理論の専門書をいきなり読むには…という方に? この後にでた彼女の作品は言語学的な内容になっているが、そちらも面白い。(pn675)

### 「有機化学美術館へようこそ」(佐藤健太郎)

西図書館 3 階・開架 437/Sa-85

化学物質の構造を美術的にとらえる内容。この本はある程度構造式に慣れた頃に見つけて面白く読んだ。そもそも私は化学は計算問題が苦手であり点を取れなかったものの、ある時「原子 1mol=[原子番号]g」だと知り、さらに資料集と Wikipedia の化学物質の構造式をずっと見ていたらまあまあ得意になったが、化学が得意な方も苦手な方も是非。(pn675)

---

### 「さつまいもと日本人」(伊藤章治)

中央図書館 2 階・小型 616.8/I-89

焼き芋や大学芋などとして現代では日本の食文化に深く根付いているサツマイモ。サツマイモが 400 年前に日本に伝わってから普及していく足取りを追うとともにサツマイモのこれからの発展を紹介している。(T)

---

### 「明治大正翻訳ワンダーランド」(鴻巣友季子)

西図書館 2 階・小型 910.26/Ko-78

当時の文豪や翻訳家たちによる海外作品の翻訳事情を記したエッセイ。日本の近代文学に触れる機会があり、当時の翻訳事情はどうだったのだろうと思い読んでみたが、まだ外来語が広まってない中でどう翻訳すればよいか悩んだり、時には大胆な改変や翻案など著作権意識が…という話など興味深い所が多々ある。青空文庫で昔の文章を読みすぎると「っ」が「つ」、「る」が「ゐ」に見えたりしますよね？えっ、しない？(pn675)

---

### 「教養として知っておくべき 20 の科学理論」(細川博昭)

中央図書館 2 階・小型 401/H-94

なにかの謎が解明されるたびに、テレビや新聞に登場する科学のさまざまな理論があります。この本ではその中から、いま、知っておくべきしくみや法則を厳選して解説しています。内容は「人間が暮らす世界のありよう」と「生物としての人類」についての理論を 2 軸に全体が構成されています。(W 田)

---

### 「植物はそこまで知っている」(ダニエル・チャモヴィッツ)

西図書館 2 階・開架 471.3/C-32

『植物はあなたのことを見ている。このことについて考えてみよう。』科学の最前線が解き明かす植物の感覚の観点から見た私たちの知らない植物の世界を論じている本です。内容は人間の感覚と比較するように植物のふるまいや仕組みなどを語っており、身の回りの植物の世界をいつもと違った角度で覗くことができます。(W 田)



### 「現代の量子力学」(J.J.Sakurai)

中央図書館 2階 421.3/Sa-47/上,下

シュレーディンガー方程式を天下一の導入してそれを解くというスタイルが多い中、なぜ複素数を物理学に導入すべきかを論じ、解析力学を援用してシュレーディンガー方程式を発見する論理は大変清々しい。この本を読んだ時、量子力学は理解できる分野なのだとは初めて実感しました。(はかせ)

---

### 「数学の秘密の本棚」(イアン・スチュアート)

中央図書館 2階 410.4/St-5

いわば「数学に関する話題のネタ帳」。とりあえずこれ一冊読んでおけば数学に関する有名な豆知識はほぼカバーでき、宴会？の話題には事欠かないと思われる。難しい数式はほぼ入っていないので、なんとなく数学に興味があるけど入門書とかではなく娯楽系の本を読みたいという方におすすめ。そして、この中で興味を持った内容を更に調べて行けばより深く学ぶことが出来るだろう(pn675)

---

### 「史上最強図解これならわかる！機械工学」(大高敏男)

西図書館 2階・開架 530/O-82

機械工学の全般にわたる基礎知識を分野ごとに分かりやすく解説している本です。内容はイラストが多用されています。入門書なので専門性の高い内容ではありませんが機械工学の全体の概要を学ぶことはできます。(W田)

---

### 「ニッポン大音頭時代」(大石始)

中央図書館 2階 767.8/O-33

最近バブルの文化のリバイバルによってディスコ・ミュージックが注目されているが、日本のダンスミュージックといえば、「音頭」。内容は、各地に存在する伝統「音頭」からの「東京音頭」の成立、そこからの様々な音頭の受容のされ方、更には現代のクラブ・ハウスの係わりまで記した、いわば「音頭通史」。故郷の盆踊りに参加しなくても「ドドンガドン」のリズムは覚えているのではないだろうか。(pn675)

# 選評(メルヘン小説編)

はかせ

題目 アルジャーノンに花束を〔新版〕  
筆者 ダニエル・キイス  
出版社 早川書房

## 書評に選んだらオシャレな本？

私だけかもしれませんが、大変オシャレなタイトルの本だと思います。可愛い絵柄でPOPカードを描いたものなら、タイトルと絵との相乗効果でオシャレ度合いがインフレーションするかもしれません。これを大学内のカフェやベンチで読めばオシャレなおトナを演じられること間違いなし！！

そんな広告はオシャレな学生に任せるとして、ここでは簡単にあらすじ紹介と、私なりのお勧めポイントや書評を記します。この小説は、大まかに言えば、頭に障害がある主人公が医療技術によって頭脳明晰になる話です。当然ながら主人公の世界への認識が手術の前後で大きく変化し、その落差が面白いと私は思います。加えて冒頭の、頭が悪いために周囲の嫌がらせや悪意を好意的に捉えることしかできず、それを拙い文章で記した部分は翻訳の苦勞が感じられ、そういう感想を抱きながら読むのも一興かと私は思います。教育免許取得のために介護等体験をした方なら、より具体的なイメージを喚起させながら施設の場面を読み進めることができるかもしれません。私は介護等体験の楽しく、辛く、理想と現実の乖離に苦しんだ日々を思い出しながら読みました。力強くてアブノーマルな恋愛場面の描写は、この本の一つの見所かもしれません。特に、これは私が物理学科所属の人間だから衝撃を受けたのですが、場の量子論という極めて難解な、量子論・電磁気学・相対論を学んだ上でようやく入り口に立てる分野を、登場人物である医学部の大学院生はなぜか知っています。それだけでも驚きなのに、さらにある人物はその大学院生の知的レベルを侮る場面があります。この場面での罵倒は強烈で、その言葉遣いを覚えながら読んでも楽しいのではないかと思われれます。もし現実にそのような言葉を使えば、友達がいなくなること間違いなしです。

# 「新本格」のススめ

形作り

皆様は「新本格」というジャンルを聞いたことがありますか？「本格推理小説」などという時の本格と同様に、「新本格」は推理小説のジャンルの1つです。今回はそんな新本格と呼ばれる小説たちを皆様に知っていただきたく、筆を執った次第です。それでは新本格という言葉の由来から、お勧めする作者まで順を追って紹介していきたいと思います。

## 新本格が生まれるまで

近代における推理小説は、エドガー・アラン・ポーの「モルグ街の殺人」から始まりました。(諸説あるところですが…)その影響を受け日本にも江戸川乱歩をはじめとした推理小説家が続々と誕生し、そのような時代に「本格」という言葉が生まれ、同様の小説が多く作られました。「本格」という言葉には様々な解釈がありますが、広義には「名探偵の活躍に主眼を置いたもの」や「純粋に謎解きの面白さを追求したもの」という意味合いで使われることが多いと思います。(余談ですが、私は「推理小説らしい『型』を意識した小説」だと考えます。)その後、推理小説の中でも社会性やリアリティのある題材を扱ったものが多く出始めました。いわゆる「社会派」と言われるジャンルです。社会性のある題材でも必ずしも謎解きの面白さがなくなるわけではないので、社会派と本格は対になる言葉ではないですが、名探偵などの本来の推理小説らしい人工的な設定は「一昔前」感が感じられるようになりました。そんな中、1987年に綾辻行人が「十角館の殺人」で鮮烈なデビューを果たし、それを契機として「本格」的な推理小説(家)が多く誕生しました。この時代に生まれた推理小説を「本格」と区別して「新本格」と呼ばれます。

また、新本格初期(綾辻行人、有栖川有栖など)の作品は古典の本格推理小説に倣った作風のものが多いですが、後期になると本格推理小説の「型」を意識しつつそれを壊した展開や舞台設定を持つものなど「新本格」が包含する作品のバリエーションは段々と広がっていきました。

## 新本格って何がいいの？

序盤に提示される魅力的な謎や、論理的な解決といった本格推理小説の持つ魅力はもちろん、新本格作品全体に見られる作風も存在します。まず、**古典の作品を踏襲**、引用したものが多くという点です。古の作品で使われたトリックを前提として物語が展開されることもあり、それに呼応するようにメタ発言も多いです。続いて、**リアリティを度外視した舞台設定**が多く、**ロジックや真相の意外性**などに主眼が置かれている点です。真相の意外性については、アンフェアと批判されるものも多く賛否両論の分かれやすいところです。私は面白ければ何でもあり、のスタンスなので前例のない展開や斬新さ、奇抜さに最も強い魅力を感じます。

## おすすめ作者、作品

お勧めしたい作家はたくさんいるのですが、代表して2人紹介します。

### ・綾辻行人(あやつじゆきと)

新本格を語る上でこの人の存在は外せません。デビュー作「十角館の殺人」は歴史的名作で、これがなければ新本格は興りえなかったといっても過言ではありません。その中でも特にお勧めしたいのは「どろどろ橋落ちた」です。犯人当て小説である本作は、フェアに読者に挑もうとする姿勢が伺えながらも、全編捻りの入った内容で容易に真相にはたどり着けません。

### ・麻耶雄嵩(まやゆたか)

綾辻行人を新本格初期の代表に据えるなら、この人は後期を代表する作家だといえます。推理小説の型やお約束を壊すような問題作が多く、時にその作風は「アンチミステリ」とも表現されます。作品の持つ歪みや毒性の強さは常に賛否両論を巻き起こしますが、私はその毒に惹きつけられてしまいました。入門の作品(毒性が弱め?)としては、「蛍」や「隻眼の少女」があげられます。

## ～社会の視点～

この混迷を極める現代社会の中で生き残って行くには何が必要だろうか？そう、多くの言説に触れ様々な視点を知ることである。と、言ってもここで紹介してる半分はSFやファンタジーだったりします。でも割と真剣に社会を捉えたものもあるんですよ。知ってました？

### 「知識人とファシズム 近衛新体制と昭和研究会」(マイルズ・フレッチャー)

西図書館 2階・開架 311.21/F-32

戦前に近衛文麿のシンクタンクだった昭和研究会のメンバー、蠟山政道・笠信太郎・三木清の3人の思想的変遷を研究した本。知的エリートであるはずの彼らが軍国主義体制を容認してゆくその過程は、知識人ゆえに陥りかねない罠そのものであり、ひいては学生が「学ぶ」ことの本質を問うものともいえるかもしれない。資本主義、社会主義、ファシズム…様々な政治体制が議論された時代において第二次世界大戦はどんな意味をもつものだったか、現代の国家観・歴史観とは違った視点を与えてくれる一冊でもある。(ロードジャスティス)

---

### 「すばらしい新世界」(オルダス・ハクスリー)

西図書館 2階・小型 933.7/H-98

すべての人間が階級によって振り分けられ、それに応じた「条件付け」を施されている近未来の話。与えられる快樂をただ享受することが幸せなのか？それとも自らの意思に従い苦悩しながらも人生を模索することが幸せなのか？そのどちらにも与さない著者のクールなストーリー展開に痺れます。大森望の軽妙な訳も最高です。(うるちゃん)

---

### 「そして誰もいなくなった」(アガサ・クリスティー)

西図書館 2階・小型 933.7/C-51

”絶海の孤島”が舞台の「クローズド・サークル」の傑作にして、童謡の歌詞どおりにひとりずつ死を遂げる「見立て殺人」の代表作。あのラストの展開がなければ、この事件は正義のもとに起こるべくして起こり、『そして誰もいなくなった』という結末を迎えていただろう。過不足ない事件の描写と、あたかも事件の当事者になったかのような緊張感ある文章に、「ミステリーの女王」クリスティーの凄みを感じる。(瀬戸内れもん)

---

### 「華竜の宮」(上田早夕里)

西図書館 2階・開架 913.6/U-32

地球規模の地殻変動というテーマは過去にも名作があるようにありふれたものだが、アシスタント AI や遺伝子改変などのトピックによって現代にアップデートされており、「魚舟」など独特な生物との関わりも良い。現代の日本作家の SF の中では個人的には最もおすすめ。著者によるとまだまだ書いていない内容があるようなので今後が楽しみなシリーズでもある。(pn675)

「進化と人間行動」(長谷川寿一, 長谷川真理子)

中央図書館 2階 467.5/H-36

進化論について非常にわかりやすく解説されており、人間の起源について思いを馳せることが出来ます。現代社会を生きる我々は、ついあらゆる価値観や社会規範が太古の昔から存在しており、人間という生物はずっとそれに従って生きてきたんだと思いがちですが、この本を読むことによってそのような思い込みは見事に粉碎されるでしょう。(うるちゃん)

---

「折りたたみ北京 現代中国 SF アンソロジー」(ケン・リュウ編)

西図書館 2階・開架 923.78/R-98

この作品はいわば現代中国 SF のショーケースとも言えるものだろうか。海外作品の中にはそもそも翻訳の機会さえなく存在さえ知らない作品が数多く眠っているのは想像に難くないが、そんな中で紹介されたこのアンソロジーはかなり面白い。追従するように陸秋槎の「元年春之祭」や劉慈欣の「三体」も刊行されるなど現代中国小説の評価が進んでいるが、それらに限らず未だ見知らぬ作品たちが今後も紹介されることを願っている。(pn675)

---

「火の鳥 太陽編」(手塚治虫)

東千田図書館小型 726.1/Te-95(上,中,下)

火の鳥の中でも特にお勧めなのが太陽編です。奈良時代と近未来、2つの時代の宗教戦争・政権戦争が複雑に絡み合い、主人公はそれらを行き来しながら人間という生物の本質に迫っていきます。とにかくストーリーが面白いのでまずは火の鳥入門編として読んでみてはいかがでしょうか。主人公が冒頭で顔の皮をすべて剥がされるシーンに耐えられればあとは夢中で読めてしまうでしょう。(うるちゃん)

---

「地球にちりばめられて」(多和田葉子)

西図書館 2階・開架 913.6/Ta-97

現在の国際化社会を見据える一冊。故郷が消滅した主人公が言語学者と知り合いになり、同郷の者を探し歩く内容で、いわば「日本沈没 第二部」の名変奏か。テーマは「言語」で、消えてしまった主人公の故郷(これが日本っぽい国)の言葉が重要なキーワードになるが、店の名前に「フジ」とついたり、主人公の名前をあえてローマ字表記にするなど、「外国から見た日本」を演出することで「言語」の曖昧さが見事に表現されている。(pn675)

---

「砂の女」(安倍公房)

中央図書館書庫 918.68/A-12/6

昆虫採集に砂丘の町を訪れた男は、まるで蟻地獄の罠に嵌るように女の住む砂に埋もれかけた家に囚われてしまう。砂に支配された無慈悲な町的生活と、網膜に焼き付く女の肢体。理性で成り立つはずの我々の社会生活はほんのいくつかの柱を失うだけで簡単に崩れ去ってしまう砂上の楼閣に過ぎない、そんな脆弱性のうえに成り立っていることを思い知らされる。モチーフとしての砂の文学的描写、サスペンス性どれをとっても非常に完成された本物の小説。(ロードジャスティス)

### 「アーロン収容所 西欧ヒューマニズムの限界」(会田雄次)

西図書館 2階・小型 916/A-24

一兵士として戦場に赴き、戦後も収容所に留められたという経験を持つ歴史学者が、当時を振り返りつつ西欧人の傲慢さを鋭く見抜き、それを記した本。西欧人の考え方を著者の視点から理解していくという読み方ができる。一方で、収容所にて各人の得意分野を生かし合って文化活動や食料調達(盗み)を行い、まるで部活の延長のようにたくましく生きていこうとする様子は、どこか楽しそうです。(はかせ)

---

### 「帰ってきたヒトラー」(ティムール・ヴェルメシュ)

中央図書館 2階・小型 943.7/V-62(上,下)

ヒトラーが現代に復活したらどうなるのか。現代にタイムスリップヒトラーは初めは戸惑いながらもやがて世間から再び人気を博すようになり再び政治への野心を抱き始める。2015年に映画化されて話題になった原作。(T)

---

### 「京都の歴史を歩く」(小林丈広ほか)

西図書館 2階・小型 291.62/Ko-12

京都市内各地の景観の歴史的形成過程を詳述した本。観光案内本なら観光地がまずあり、次にその歴史を解説するところだが、本書では第一に歴史が語られ、その文脈のなかで観光地が語られる。観光地が表しているものは必ずしもその場所に積み重なった歴史の総体ではなく、ある種の選び取られた歴史観なのかもしれないという視点に基づいた町巡りの手引きである。(ロードジャスティス)

---

### 「死体は語る」(上野正彦)

西図書館 3階・開架 498.9/U-45

現在では小説やドラマ等で有名になった法医学。その法医学の一般入門書といえばこの作品だろう。著者は監察医で、この書籍は実際の解剖や検死の体験をエッセイにしたものである。ある意味で"グロイ"が、それは「空想」ではなく「現実」で、目を背けてはいけないものだ。「死」と対面するだけあり重いテーマだが、文体は堅苦しくないためそれほど詰まることなく読める。(pn675)

---

### 「空色勾玉」(荻原規子)

西図書館 2階・小型 913.6/O-25

古事記・日本書紀を背景にしたにした純日本ファンタジー。西洋的でない和風の(といっても一般にイメージするような平安時代(貴族社会)よりもかなり昔の話だが)ハイ・ファンタジーでは白眉の作品で、いわゆるファンタジー(西洋ファンタジー)の模倣とは一線を画す。第22回日本児童文学者協会新人賞受賞作だが児童文学というより少女小説という感じで、ある程度大人になっても抵抗なく読めるだろう。(pn675)

「緋色の研究／四人の署名／バスカヴィル家の犬／恐怖の谷」(コナン・ドイル)

中央図書館書庫 908/69

名作「シャーロックホームズ」の長編物語、全4作品をまとめた本です。作品はホームズの助手であるワトソンの事件記録形式となっているが、ホームズの観察力と推理力には驚かされる。時代を超えてもなおシャーロックホームズの魅力は衰えることなく、世界中で読み継がれています。(W田)

---

「ジェノサイド」(高野和明)

西図書館2階・開架 913.6/Ta-47

最初は題名から連想してお堅い社会派サスペンス or ハードボイルドな内容かと思いつつ読み始めたが、後半から一気に話が進み、いい意味で裏切られた。ネタバレになるかもしれないがあえて書くと、私はこれを『神様のパズル』(機本伸司)、『パワー・オフ』(井上夢人)と合わせて「生物系三大奇書」になぞらえて「生物()系三大日本SF」と呼んでいる(())の中を書くと本当にネタバレになってしまうので伏字)。(pn675)

---

「大地」(パール・バック)

中央図書館2階・小型 933/B-82/1~4

中国の大地を舞台にして貧農のから富豪になった王龍とその子孫を通して中国の農民の暮らしたとともに清朝末期から近代機へ進む中国の変化を描いた一作。パールバックはこの作品でノーベル文学賞を受賞した。(T)

---

「斷腸亭日乗」(永井荷風)

中央図書館自動書庫 915.6/N-14/1~7

大正6年から昭和34年まで著者の行動を記録した日記。世相の観察や体制批判、そして色話を記したこの日記は当時の風俗・社会制度・事件を記録している点が興味深い。思想取締りの強化や空襲の記述は手に汗握る名文。(はかせ)

---

「完全教祖マニュアル」(架神恭介, 辰巳一世)

西図書館2階・小型 160.4/Ka-16

教祖になるには具体的にどのような行動をすればいいかという How To 本であると同時に、宗教を「作る」側の視点に立って解説しているというある意味斬新な本。外部からは異常に映りうる宗教の各要素を科学的、また論理的(詭弁的?)に説明しており非常にわかりやすくなおかつ面白い。(形作り)



### 「3001年終局への旅」(アーサー・C.クラーク)

中央図書館 2階・小型 933.7/C-76

31世紀、冷凍睡眠状態から1000年ぶりに目覚めたフランクプールはエウロパで再会した旧友から地球に危機が迫っていることを知らされる。2001年宇宙の旅シリーズの完結編。(T)

---

### 「破戒」(島崎藤村)

西図書館 2階・小型 913.6/Sh-45

これを読めば教職科目「同和教育」の理解が進みます。また、いまだに残り続ける不合理な差別が、明治においてはどのような形態だったのかを垣間見れる点で貴重な本と言えます。主人公の振る舞いは、特に最後の行為は理解に苦しみましたが、皆さんはどうでしょうか?(はかせ)

---

### 「図書館の魔女」(高田大介)

西図書館 2階・開架 913.6/Ta-28/上,下

題名には「魔女」とあるが、操るのは魔法ではなく言葉であり、ファンタジーというより架空世界の歴史小説だと言いたい。全てのことに理屈がつけられており、出てくる事柄も文献・書誌学、言語学、政治学、歴史学、地理学、工学、物理学、農学、医学、…と多岐にわたる。描写が主人公の内面外面にかかわらず緻密で、そのためかなり長い作品となっているがそのことは全く欠点になっていない。流石「メフィスト賞」という作品だ。(pn675)

---

### 「ジーンワルツ」(海堂尊)

中央図書館 2階・小型 913.6/Ka-21

産婦人科医である曾根崎理恵はそれぞれ異なる境遇ながらも事情を抱えている五人の妊婦とかかわる中である決断をすることになる。生命の尊厳と意味をテーマにした一作。(T)

---

### 「だれも知らない小さな国」(佐藤さとる)

西図書館 2階・小型 913/Sa-85

児童文学の傑作の一つで、小人と人間の交流を書いたエブリディ・マジック(いわゆる「日常もの」)の作品。舞台は昭和中期の田舎町で、少年の時に見つけた自分だけの秘密の場所で主人公は「小人」と出会い、「コロボックル」と名前をつけ次第に交流を深めるがそこに開発の波がやってくる…。人間と「小人たち」の関わり、人間のものをうまく活用した「小人たち」の生活など読みどころが多くある。(pn675)

### 「20世紀とは何だったのか 「西欧近代」の帰結」(佐伯啓志)

西図書館 2階・小型 304/Sa-14

筆者の京大での講義内容を再構成したもので、ニーチェやハイデガーの思想を分かり易くまとめながら20世紀という時代の相対化を図る。それは現代を観るための視点でもある。なぜ物質的に充足した現代において、我々は常に満たされないのか。なぜ都市にこれほどまで人口が集中しているのに、我々は孤独なのか。無意識下にある我々の生き方や社会構造の見方を相対化する一冊だといえる。(ロードジャスティス)

---

### 「図書館戦争」(有川浩)

西図書館 2階・開架 913.6/A-71

実質的に検閲を合法化する法律が制定された近未来を舞台に、図書館の抵抗活動と表現の自由についてを描いた作品。重いテーマを書いているながら読みやすい作品に仕上がっており、SFとしてもサスペンスとしてもはたまた恋愛小説としても読めてお得である。作品の舞台は正化31年(正化は平成と並ぶ昭和の次の元号の候補)であり、つまり今年(平成31年=令和元年)。本を愛する人間としては身につまされる作品だ。(pn675)

---

### 「黒い家」(貴志祐介)

中央図書館 2階・小型 913.6/Ki-56

保険会社に勤務する若槻慎二は訪問した顧客の家で子供の首つり死体を発見する。状況から他殺を疑った若槻は独自に調査を進めていくがこの事件はさらなる惨劇の幕開けに過ぎなかった。(T)

---

### 「本で床は抜けるのか」(西牟田靖)

西図書館 2階・開架 024.9/N-84

「本で床は抜けるのか？」この疑問にドキッと少しでもしたなら是非これを読んでもらいたい。本で床が抜けた実際の例から、建物の構造、本の置き方、電子書籍、遺品としての書籍の処分など、書籍と保管に関することがまとめられており、中々参考になると思う。床は抜けなくても、棚がたわんだり、床が歪んで歩くたびに音がしたりする(実体験)ので、手持ちの書籍が3桁に達するなら是非読んでもらいたいと真剣におすすめする。(pn675)

---

### 「新しい1キログラムの測り方」(白田孝)

西図書館 3階・小型 609/U-95

1kgの定義が2018年11月に改定され、1kgはプランク定数の値を正確に決めることで設定される、と決まりました。この定義改定の実現に、日本の計量標準総合センターの研究も大きく貢献しました。本書は単位系を国際的に取り決める意義、1kgの新定義の根拠、そしてプランク定数を正確に測定するまでの過程を、同センターの長が自ら著したものです。定義改定までの道のりを圧倒的臨場感とともに追体験できる点がオススメポイント。(はかせ)

### 「鹿の王 生き残った者」(上橋菜穂子)

西図書館 2階・開架 913.6/U-36/上

話題となった上橋菜穂子氏のファンタジー小説「鹿の王」。話は二人の主人公の内、希望が日々すり減る囚われた戦士団の頭、ヴァンと病の媒介者の到来から始まる。作品の世界は医療ファンタジーだが、世界の隅々まで描かれた人々の心情、生活、そして文化の違いによる人の対立を複雑で幻想的にかつリアリティのある描写で展開していく。(W田)

---

### 「生体解剖 九州大学医学部事件」(上坂冬子)

中央図書館 2階 916/Ka-38

戦時中、撃墜された B-29 の搭乗員が九州大学医学部の関係者によって生きたまま解剖・実験され、そのまま死亡するという事件が発生した。本書はその事件を追ったノンフィクション。作者の主観がやや入った文章も見受けられるが、記録と取材に基づく丁寧な調査は当時の大学や軍隊の空気を現代に伝えてくれます。(はかせ)

---

### 「平成金融史 バブル崩壊からアベノミクスまで」(西野智彦)

西図書館 2階・小型 338.21/N-85

「バブルの頃は良かった。」かつて定期預金の金利が 6%の時代があった。金が金を生むバブル経済はしかし、平成の幕開けと共に崩壊、これが長期の経済低迷、いわゆる失われた 30 年へと繋がっていった。本書は大蔵省(現財務省・金融監督庁)の役人や銀行頭取がいかにも過度なバブルを抑え込もうとし、崩壊後の連鎖銀行破綻の食い止めに挑んだかを、記録と証言に基づいて丁寧に振り返ったものだ。今の日本経済に至る道筋を概観できる良書。(はかせ)

# 選評(芥川賞受賞作品編)

はかせ

題目 コンビニ人間  
筆者 村田沙耶香  
出版社 文藝春秋

## 普通とは何か？

私は人間を評する際に用いられる「普通」という言葉の意味が分からない。どうすれば普通の人間と評されるのか、私はその評価基準を見たことも読んだこともないからだ。でも、周りを見渡せば、空気を読んで適切な発言をしたり、過去問を手に入れて楽にテストを乗り越えたりする人々に溢れており、彼らはそれがさも当たり前かのように生きている。これが普通の大学生の振る舞いなのだろうか？

『コンビニ人間』は、我々が持つ「普通」という概念を切り崩しにかかっている本だと思う。発達障害気味の主人公は幼少期から普通でないと言われ続け、周りから普通であると評されようと努力し、やがて普通の人々の口調や態度を模倣しだす。コンビニのバイトを始めたのも、普通の人間になるための手段だった。しかし、普通の人々の真似をしながらコンビニバイトを続けた結果、主人公は普通に考えれば婚期を過ぎている年齢になっていた……。

そんな冒頭から始まるこの小説は、「普通の人間を模倣している人間は、普通の人間と言えるだろうか？」という問いに対する答えを見出すために作られたシミュレーションだと私は思う。主人公の内面の記述や、外界からの働きかけに対する主人公の反応の記述はかなりしつこく、まるで観察対象の詳細な時系列データのようなことからである。

「社会は個人に「普通」という概念を押し付けているが、実はそれは曖昧な概念だとこの本は示唆している。」私が持った感想はこれだけだ。そこから更に議論を発展させ、この本は無個性を要請する現代社会を皮肉った小説だとか、小説という形式で生きにくい世の中を極端に描いたものだとか、そういう高尚な評論を書くことは、誇張気味のきらいがあるので行わない。そういう読み方をするのも楽しいかもしれないが、私は主人公への共感を覚えたという経験を味わうだけに留める。

## 22 世紀のファンタジー

pn675

題名は「ファンタジー」としてみましたが、本稿で紹介するのはファンタジーにもホラーにもミステリにも SF にも当てはまらず、そしてそのどれにも当てはまる、つまりは既存のジャンルには収まらない「へんてこ」な作品たちです。

過去の作品では『吉里吉里人』(井上ひさし)や、『美しい星』(三島由紀夫)、『同時代ゲーム』(大江健三郎)、『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』(村上春樹)、安部公房や倉橋由美子もそんな作品を数多く書いていますし、それこそ近代文学の作品でも「片腕」(川端康成)、「猿ヶ島」(太宰治)、「山月記」「文字禍」(中島敦)を始め、宮沢賢治、稲垣足穂、泉鏡花、堀辰雄など星の数ほど名作がありますが、とりあえず平成以降、特に割と最近(ここ 10 年ぐらい)の作品を取り上げてみます。

最初に紹介したいのは「芥川龍之介賞受賞作家」の作品です。意外と(?)エンターテインメント作品を対象とした直木賞より、純文学作品を対象とした芥川賞の方がそんな作品が多いことで有名ではあります。

まず「蛇を踏む」で受賞した川上弘美です。そもそも川上弘美はデビュー前には SF 同人誌に寄稿しており、井上ひさし、小林恭二、筒井康隆らが審査員を務めたパスカル短篇文学新人賞を「神様」で受賞してデビューしました。2016 年出版の『大きな鳥にさらわれないよう』は遙か未来の絶滅の危機に瀕した人類の話です。続いて多和田葉子です。芥川賞受賞作品は『犬婿入り』。最新作(2019)は留学中に故郷が消滅した主人公が自分と同じ母語を話す者を探しに旅立つ『地球にちりばめられて』。他にも『献灯使』という作品もあります。現在ドイツ在住で今年(2019)のノーベル文学賞の受賞予想に名前が上がっていました。

思想的にラディカルな作家にも興味を惹かれます。その筆頭は笹野頼子と村田沙耶香でしょうか。笹野頼子は“マグロ”から電話があって海芝浦駅に行かされるという話の『タイムスリップ・コンビナート』で受賞しましたが、最近は、日本神話とフェミニズムに裏打ちされた過激な世界観の近未来ディストピアが舞台の『水晶内制度』や『ひょうすべの国』を書いています。他にも『二百回忌』『金毘羅』など興味を引く作品を多く書いています。「コンビニ人間」で受賞した村田沙耶香ですが、10 人産んだら 1 人殺せるシステムで人口を保つ未来が舞台の表題作の『殺人出産』以来、その姉妹篇(?)の『消滅世界』、ポハピピンポピア星人だと“目覚めた”少女が主人公の『地球星人』の三部作(?)は素晴らしい内容でした。現時点(2019)での最新作『生命式』のあらすじを見るにこの路線はまだまだ続くようなので注目しています。また『親指 P の修業時代』や『犬身』を書いた松浦理英子も同系統の作家です。

その他にも、「穴」で受賞し『工場』『庭』などを書いている広島大学出身の小山田浩子、「異類婚姻譚」で受賞した本谷有希子、「百年泥」で受賞した石井遊佳など興味深い作家が多いです。もちろん円城塔も受賞しています(「道化師の蝶」)。

あとはごった煮になってしまいますがもうちょっと紹介します。

個人的に偏愛しているのは三崎亜記と長野まゆみです。三崎亜記は公共事業としての“戦争”を行う自治体を書いたデビュー作の『となり町戦争』から一貫して現代社会を批評する話を書き続けており、まさに「現代の寓話作家」と言えるでしょう。おすすめの作品は、戦後最大の“鼓笛隊”が列島に襲来する「鼓笛隊の襲来」、ある町から突然住民が消える“消滅”と呼ばれる災害を巡る叙情的な『失われた町』などです。三崎亜記の作品は全てどこかでつながっていて一つの世界を形成しているので、それを意識しながら読んでも面白いでしょう。長野まゆみは往年の少女漫画に通じる耽美(少年愛,BL)な世界観と宮沢賢治的世界観が融合した幻想的なストーリーが特徴です。デビュー作の『少年アリス』は忘れ物を取りに行った夜の学校で奇妙な劇に巻き込まれる話。2018年に出版された『カンパネラ版 銀河鉄道の夜』では中原中也も引用しつつ宮沢賢治と「銀河鉄道の夜」に迫っています。両名とも作品数の割に賞とは無縁なのでもっと評価されるべきだと思っています。

他にも、詩人でもある雪舟えまが書く、家の意識を読む“家読み”と逃亡した労働型クロウンの二人旅の『凍土二人行黒スープ付き』や、失恋給付金が支給される街、眠れない人のために代わりに眠る職業などがテーマの短篇集『パラダイスイー8』。児童文学作家の梨木香歩が書く、棕の木のうちろに落ち込んだ主人公が奇妙な体験をする『f 植物園の巣穴』や、代々母から受け継がれてきたぬか床から声が聞こえてくる『沼地のある森を抜けて』。畑野智美が書く、ちょっと変わったタイムマシンが出てくる『ふたつの星とタイムマシン』と『タイムマシンでは行けない明日』。桜庭一樹が書く、山陰地方の村を舞台に製鉄業を営む名家の三代にわたる歴史が書かれる『赤朽葉家の伝説』と、そのスピノフの『製鉄天使』。彩瀬まるの『くちなし』は愛した人が変なことになる短篇集。最後に入っている遠い未来を書いた「山の同窓会」が傑作です。同作者の最新作(2019)の『森があふれる』は妻が“森”に変わった作家の話。高山羽根子の『オブジェクタム』はいつの間にか張られている奇妙な壁新聞にまつわる話が表題作の短篇集。更には、不審なシロクマをみかけた工場でその正体を追う一條次郎の『レプリカたちの夜』、本が飛び回る爆笑の一大年代記な小田雅久仁の『本にだって雄と雌があります』や、有名なので特にここでとり上げなくても皆さんご存知かと思われる森見登美彦や万城目学の作品などたくさんあります。

取り上げた作品は長篇や短篇やさまじまですが、一冊丸ごと読んでみると大変かもしれないので『変愛小説集』というアンソロジーをおすすめします。このアンソロジーは「変な恋愛」をテーマに書かれたもので、ここで取り上げた中では川上弘美、村田沙耶香、多和田葉子、本谷有希子、他にも木下古栗、星野智幸などが寄稿しています。海外篇もあるのでそれもおすすめです。

紹介した作品は様々な読み方が出来るので、恋愛小説をよく読むけど小難しい SF はちょっと…、または SF はよく読んでいて恋愛小説はちょっと…とか思っている方に特におすすめ。これらの作品がファンタジーや SF とその他のジャンルをつなぐ架け橋になれば個人的にはとても嬉しいです。

# ～探求の方法～

なんだかんだ言っても大学は研究をする場所。レポートやその他の課題に参考になるかもしれない文章法や問題解決の方法、研究者の生き様や研究成果など、もしかしたらこの冊子中で最も役立つかもしれない書籍が揃っています。

## 「いかにして問題をとくか」(G.ポリア)

西図書館 2 階・開架 410.7/P-77

数学者である筆者が、数学の問題を解くための方法を体系化して示した解説書。本書は数学の問題を扱っているが、その教えの中にはその他様々な種類の問題に応用できるものも多く、一般的な問題解決に対する思考力をつける目的でも読むことができる。(形作り)

---

## 「鳥取環境大学の森の人間動物行動学シリーズ」(小林朋道)

西図書館 2 階・開架 481.78/Ko-12

教授と学生たちがフィールドワークを通して身近な動物たちの生態の不思議に迫る軽妙なエッセイ。私は実家が田舎にあるので動物はかなり多く、タヌキやイノシシはもとより、クマも見たことがあるが、動物園では見るできない別の一面をこの書籍で知ることができるだろう。現在 14 冊出ており読み応えも充分。(pn675)

---

## 「全国アホ・バカ分布考」(松本修)

中央図書館 2 階 810.2/Ma-81

朝日放送の老舗番組「探偵!ナイトスクープ」に来た「アホとバカの境を調べてほしい」という依頼に端を発した、実に関西らしい、そして TV 番組だからこそできる調査というものも堪能できる書籍。柳田邦男の方言周圏論を示すような見事な結果はもとより、調査方法も東京→大阪での街頭調査と全市町村へのアンケートが共存している所など言葉の分布だけでなく TV 局と学術調査の関わりについても考えることができるだろう。(pn675)

---

## 「ガロア 天才数学者の生涯」(加藤文元)

西図書館 2 階・小型 289.3/G-17

決闘が原因で 21 歳の若さで死んでしまった天才数学者ガロアの伝記。彼の生涯を記した通俗本は多々ありますが、実はそれらは結構間違っていることを丁寧に論証しています。数学書とにらめっこした後、この本で息抜きするのも乙かもしれません。(はかせ)

「バッタを倒しにアフリカへ」(前野ウルト浩太郎)

中央図書館 2階・小型 486.45/Ma-27

古今東西蝗害として作物に多大な損害を与えてきたバッタを研究しにアフリカへ行った若い研究者の抱腹絶倒のエッセイ。それにしてもバッタを専攻した動機が「バッタに食べられたい」だというのがただただ凄く、私もそれだけの熱量があるだろうかと自省させられてしまう。未来に対して夢も希望もある中学生～大学初年度位に読んでおきたい本である。(pn675)

---

「教養としての大学受験国語」(石原白秋)

西図書館 2階・小型 375.84/I-74

大学教授である筆者が、入試現代文の過去問を材料に思考の方法や現代文の攻略方法を語っている。テーマ別に書かれていて、入試現代文の参考書としても、現代社会を学ぶ入門書や思考力を身に着ける教養書としてなど色々な楽しみ方ができる。ところどころに挟まれる入試問題に関する裏話や批判も面白い(形作り)

---

「数学文章作法(基礎編,推敲編)」(結城浩)

西図書館 2階・小型 410/Y-97

「自分の考えを読者に正確に伝えること」を目的として、正確で読みやすい文章の書き方を解説した本。文章を書くときに気を付けるべきことが網羅的かつ体系的に述べられている。数学に限らず、論文やレポートなどを作成する際には手元に置いておきたい一冊。(形作り)

---

「志学数学 研究の諸段階～発表の工夫」(伊原康隆)

中央図書館 2階 410.7/I-25

数学の取り組み方について学習方法から研究、発表に至るまで実体験をもとにかなり具体的に示されている。一方で学習や研究の心構えも多く述べており、数学以外の学問に取り組む人々に関しても得るものは大きいと考えられる。(形作り)

---

「物理数学の直観的方法」(長沼伸一郎)

西図書館 2階・小型 421.5/N-16

どうしても理解できない数学でも、著者が用意する小道具を使えば一気に靄が晴れて核心へと迫ることができます。数学が理解できないのは指導者の教え方にも問題があるのだと実感できる、大変教育的な物理数学虎の巻。(はかせ)



### 「英語が面白くなる東大のディープな英語」(佐藤ヒロシ)

西図書館 2 階・小型 830/Sa-85

東京大学の英語入試をテーマに、英語の本質に迫った一冊。英語をうわべの知識としてではなく正しく理解するために必要な要素を、作問者側の立場で入試問題を解説することで示している。感覚ではなく思考力をもってして英語に向き合う重要性が説かれている。(形作り)

---

### 「もっとヘンな論文」(サンキュータツオ)

西図書館 2 階・開架 049/Sa-65

野球選手と結婚するには？かぐや姫の翁の年齢は？夏目漱石が松山へ赴任した時の航路は？等々、一見笑ってしまうも、実は真剣な学術論文に焦点を当てて紹介する本。学問のあらゆる自由さを教えてもらった気がします。(はかせ)

---

### 「聞く力 心をひらく 35 のヒント」(阿川佐和子)

西図書館 2 階・小型 361.45/A-19

雑誌の対談企画を 20 年以上務めている筆者がインタビューの心得を述べた本。相手の本音を引き出すために筆者が苦労しながら身に着けたノウハウは、我々が普段交わす何気ない会話にも反映できるものが多い。コミュニケーション能力の上達が叫ばれている現代を生きる人々に薦めたい一冊。(形作り)

---

### 「方法序説」(デカルト)

西図書館 2 階・名著との対話 135.23/D-64

デカルトといえば「われ思う、ゆえにわれあり」という言葉が有名であるが、まさにその言葉が本書に登場している。哲学を始める上で最も重要なのは、数学体系と同様に、誰もが正しいと認める確実なことからスタートすることである。あらゆるものを疑い尽くし、絶対に疑いようのない真理を導き出す。本書はその過程が記されている。近代哲学の祖であるデカルトの書物。解説を含め 140 ページ程度なのですぐ読める。(瀬戸内れもん)

---

### 「思考の整理学」(外山滋比古)

西図書館 2 階・小型 141.5/To-79

筆者の経験をもとにして新たなアイデアや発想を産む方法論が書かれている。刊行から 30 年以上たっているが、考えにあまり古臭さは感じられない。AI が台頭する以前の時代に自分の頭で考えることの重要性を説いている先見性が素晴らしい。学ぶべきポイントは多いと感じるものの、実際にやってみて自分なりのやり方を見つけるのが一番重要だろうなと思ったりもする。(形作り)

「ご冗談でしょう、ファインマンさん」(R. P. ファインマン)

西図書館 2階・123冊 289.3/F-23/上,下

天才物理学者ファインマンのエッセイ。どの話も基本的には笑えるものばかりで、私は特に機密文書が収められた金庫を破るエピソードが気に入っています。物理だけでなく、世の中の全てをおもちゃにしてしまう彼の考え方が現れている点が興味深い。ファインマンは一方で科学に真摯に向き合い、知的に不誠実な人を糾弾していました。愉快的日常の記述の中に彼の真面目な考えが垣間見え、それがこの本のスパイスとなっていると思います。  
(はかせ)

# 選評(理工書編)

はかせ

題目 理論電磁気学 第3版  
筆者 砂川重信  
出版社 紀伊国屋書店

## 概要

本書の特徴は以下の通り。

- ・ Maxwell 方程式を出発点として様々な現象を説明するスタイル
- ・ 最初の方で Maxwell 方程式の観察から式の対称性やゲージ変換性を議論している
- ・ 理論展開は明晰で、曖昧さなく厳密であり、物理的意味の説明もしっかりなされている
- ・ 最後は相対性理論

つまり、この本は手っ取り早く電磁気学の単位を取るための本ではなく、電磁気学を理解したい人のための本である。とにかく電磁気学の単位が欲しいなら某マ○マシリーズを読めばいい。典型的な電荷分布に対する電位の計算をできるようになるし、試験の問題は大体そのような手計算で解ける問題ばかりだからだ。しかし、物理学そのものを理解したい人なら、ぜひこの本を読むべきだ。なぜなら、この本を読めば物理の理解に必要な数学的素養、式の構造や対称性を見抜く力、場の量子論を勉強する際の前提知識、相対性理論の本質が身に付き、これらは物理学の学習・研究に必須だからだ。確かに計算が面倒な項目もある。1日計算してようやく1頁進む日もあるかもしれない。電磁波の放射や伝搬の議論では、発狂したくなるぐらい面倒な式変形もある。だが、その先には「電磁気学を理解したかもしれない」という、小さいながらも確かな自信が芽生えてくる、そんな境地が待っているかもしれない。

# 選評(異端編)

はかせ

題目 立喰師列伝

筆者 押井守

出版社 角川書店

この著作は民俗学者犬飼喜一の著作『不連続線上の系譜』の記述形式を踏襲し、犬飼による立喰師の事例研究を筆者の観点から注釈・補足・批判し、その上で東京オリンピック以後の脱戦後の空間に現れた立喰師の研究を筆者なりに総括するという内容である。本書は犬飼が『不連続線上の系譜』で打ち立てたテーゼである「立喰師の実相は常にそのタネモノに集約的に発現せざるを得ない」を事例研究の骨子としていることも相まって、前半の内容は犬飼の著作と被る点が多い。しかしながら、犬飼の著作には詩的な表現・言い回しのみならず、確信的推測と主張する想像或いは妄想、学会から異端視扱いされる理由の一つである論理的飛躍等、学術的に無意味な記述が多く、本書はその欠点を補うために別の立喰師研究の結果を援用し、犬飼の主張を補強している。この点が本書前半の成果であろう。本書後半では筆者は犬飼のテーゼ及び犬飼の立喰師=詐偽による自己実現者説とを基に、東京オリンピック以後に現れた立喰師の事例研究を行っている。立喰師がゴトの対象とする調理品の成立背景を、前半に続いて筆者がここで詳しく考証している点は注目に値する。なぜなら、立喰師のタネモノの成立背景に着目するのは犬飼の研究方法のひとつであり、筆者が犬飼の研究に負けず劣らずの食物文化史を著している点で、犬飼の研究の引継ぎを行なっているように見えるからである。即ち、本書の後半は筆者の思想的立場の表明と見て取れる。筆者は犬飼のアプローチで、犬飼が触れなかった脱戦後の立喰師の研究を行なっているのである。一方で、研究成果としての立喰師の思想・行動原理の解明という点では、犬飼と比べてやや表面的な印象を受ける。筆者は食物文化史・事実の検証という点に力を注いでいるが、そこから読み解いた立喰師の実相については、恐らくは紙数の関係上、多くを省かれている。この点は本書の性格上仕方がない。本書序文に「敢えて列伝という形式を選んだのは、煩瑣な学問的論究を避けて読者の便宜を図る」と記されているように、本書は立喰師の民俗学的研究の紹介という通俗的目的によって作られたものであり、筆者の新研究を中心に据えたものではないからである。しかしながら、だからといって本書の学術的意味がないわけではない。犬飼の思想とその応用例を知るにはこの本が必須であることには変わりがない。立喰師研究は本書のような研究紹介・研究結果の積み重ねで進むものである。立喰師研究を始める研究者の卵には水先案内として、最前線で立喰師研究を行う研究者には研究手段の参考として、それぞれ推薦できる本であると、私は思う。

本書と上の書評はフィクションです。

# 数学小説アンソロジーを編んでみた

pn675

皆さん、小説は好きですか？数学は？一見交わりそうにない小説と数学ですが、世の中広いもので**数学小説**とでも言うべきジャンルの作品があります。そこで、今まで読んできた短篇の中からテーマを設定してアンソロジーを編んでみました。それでは早速目次をどうぞ。

## —目次—

### ・数えるということ～数学の始まり～

「数えられますか」(清水義範)／「わたしを数える」(高島雄哉)／「指数犬」(向井湘吾)

### ・数学で遊ぶ、数学を学ぶ

「フォア・フォーズの素数」(竹本健治)／「p と q には気をつけて」(高橋文樹)／「大日本凡人會」(森見登美彦)

### ・数学者さまざま

「5まで数える」(松崎有理)／「庭、庭師、徒弟」(樺山三英)／「カオス出門」(金子邦彦)

### ・他分野との関り

「日本改暦事情」(沖方丁)／「探偵助手」(小林泰三)／「盤上の夜」(宮内悠介)

### ・コンピュータの可能性

「アリス女王の愛した魔物」(小川一水)／「プロジェクト：シャーロック」(我孫子武丸)／「ノックス・マシン」(法月綸太郎)

### ・数学的奇想を味わう

「素数の呼び声」(野尻抱介)／「無限登山」(八木ナガハル)／「エッシャー世界」(柄刀一)／「走れメデス」(三方行成)／「Boy's Surface」(円城塔)

## —解説—

### ・数えるということ～数学の始まり～

数学は数えることから始まりました。そこから自然数が生まれ、その後、整数、有理数、実数、虚数、…と拡張されていったのです。

「数えられますか」は大家と店子が助数詞を巡る掛け合いをする話、「わたしを数える」は「番町皿屋敷」の逸話をサイバーパンクにアレンジした話で、どちらも落語にインスパイアされた作品です。他にも「壺算」「三方一両損」などの計算する落語の演目があります。「指数犬」は江戸川乱歩の「少年探偵団」シリーズのトリビュート企画の内的一篇。著者は「お任せ！数学屋さん」などの数学が絡んだジュブナイル小説を書いています。

## ・数学で遊ぶ、数学を学ぶ

学校で学ぶ数学には苦い思いをした方も多いかもかもしれません。しかし、数学を使った面白いパズルやゲームもたくさんあります。それを使って楽しく学べると苦手意識もなくなるのではないかと思うのですがどうでしょうか。

「フォア・フォーズの素数」は「4つの4と四則演算だけを使って色々な数を計算する」というパズル「フォア・フォーズ」で遊ぶ男の子の話。これを読むと、作者はストーリーより自分で考えた答えを書きたかったのではないかという疑惑を感じます。「 $p$ と $q$ には気をつけて」はいわば数学演習問題メタフィクション。試験のたびに動く点 $P$ と点 $Q$ には悩まされた方も多いかもかもしれません。「大日本凡人會」はいかにも森見登美彦作品らしい恋人の存在を数理的に証明しようとするモテない大学生の話。

ジュブナイル小説やライトノベル、またはヤングアダルト小説には、思ったより数学がテーマになっているものも多く、有名なのは例えば「浜村渚の計算ノート」(青柳碧人)、他にも先ほど挙げたものや「アリスシリーズ」(中原涼)、「青の数学」(王城夕紀)、「永遠についての証明」(岩井圭也)などがあります。私が読んだ限りだと、一番難しいのは「算数字宙の冒険」(川端裕人)で小学生が主人公のファンタジーである割にリーマン予想まで出てくる驚愕の内容でした。小説というより教科書ですが「数学ガール」(結城浩)や「数の悪魔」もここに入れておきましょう。あとは映画ですが「サマーウォーズ」もそうでしょうか。

## ・数学者さまざま

科学者、特に数学者は古今東西「変人」として書かれている印象が強いですが、数々の逸話、特にラマヌジャンやハーディ、ガロア、ジョン・フォン・ノイマンなどについて聞くたびに安易に否定できなくなる所が少々癪に障ります。

「5まで数える」は数学者の幽霊と失算症の少年の心温まるジェントル・ゴースト・ストーリー。副題が「I can't count five.」な所が気が利いています。同作者の「ぼくの手の中で静かに」も数学者の話です。「庭、庭師、徒弟」は哲学者ウィトゲンシュタインの思想をもとにした話。数学と哲学の間には限りなく近くて限りなく遠い不思議な関係があります。「カオス出門」は現役の科学者が書いた「もしカオスがなくなったら？」という話。同作者の「小説 進物史観」が超傑作なのですが、少々長くて遠慮しました。ちなみにこの方は円城塔の指導教官だった人で、「円城塔」の筆名は「小説 進物史観」の中からとられています。

日本で最も有名な数学小説は「博士の愛した数式」(小川洋子)と「容疑者Xの献身」(東野圭吾)でしょうか。どちらも数学者(教師)が「変人」として書かれてしまっています。今こそブランドイメージを良くする策を考えないといけません。「数学的帰納の殺人」(草上仁)も数学者が活躍するミステリですが、こちらは比較的常識人として書かれています。

## ・他分野との関り

「数学は科学の女王にして奴隷」といわれるように、物理学、天文学などはもとより、統計学、経済学、言語学など数学を使わない学問はほぼないと言ってしまっても良いでしょう。また純粋数学はともかく応用数学については割と分かりやすい解説書なども発売されていて、

名のある執筆者(長沼伸一郎、西内啓など)も出てきています。

「日本改暦事情」は、江戸時代に日本初の国産暦の作成に尽力した天文暦学者の渋川春海の話。後に長篇化して「天地明察」として刊行されヒットしました。「探偵助手」(小林泰三)はなんとあの「数学セミナー」に掲載されたミステリ。QR-JAM(QR コードの発展形みたいなもの)の理論の応用例として書かれており、スマホを持って読んでみましょう。他にも同作者の「海を見る人」という短篇集は、普通に読めばファンタジーですが作中に出てくる数字を拾って計算してみると…という SF です。「盤上の夜」は囲碁盤を感覚器とする女性棋士の話。「遊び」の方に入れようかと迷いましたがこっちに入れてみました。この作品を表題作とする短篇集は、将棋、囲碁、チェスなどのボードゲームがテーマになっています。

江戸時代には日本独自の和算の文化が花ひらき、中でも関孝和などが有名ですが、「天地明察」の他、「美しき魔法陣」(鳴海風)など時代小説の中にも和算をテーマにしたものがあります。また「武士の家計簿」(磯田道史)という新書もあります。ここから会計や金融、経済などまで広げると「女子大生会計士の事件簿」(山田真哉)や「トッカン」(高殿円)などの現代のお仕事小説、城山三郎や池井戸潤の経済小説もありますが、ここはこれ位にしておきます。

### ・コンピュータの可能性

現代で最も注目を浴びている分野はなんといっても IT 関連でしょう。IT とは「Information Technology」の略で、「Internet Technology」ではない、という使い古された話は置いておいて、人工知能、自動運転、VR などまるで SF 的なモノが日々実用化されています。

「アリス女王の愛した魔物」は「人力」コンピュータを作った王の話。「手計算」には何かの魅力があるようで、「予め決定された明日」(小林泰三)や「三体」(劉慈欣)にも同じアイデアが出てきます。「プロジェクト:シャーロック」は AI で名探偵をシミュレートするミステリ。「ノックス・マシン」は本格ミステリ評論と"数理文学解析"が笑撃の融合をとげた超絶技巧の「メタ」ミステリ。非常に高度にソーカライズされたネタが山盛りになっています。

コンピュータと SF は(当たり前ですが)非常に相性が良く、まだモニターがなかった時代からそれをテーマにした作品が書かれてきています。当時の作品としてはサイバーパンク系の作品を始めとして「脳セッション」「ミルキーピア物語」(東野司)、「パワー・オフ」(井上夢人)、「順列都市」(グレッグ・イーガン)などが有名でしょうか。最近では人工知能学会誌に「人工知能や情報技術」をテーマにしたショートショートが 2012~2016 年にかけて掲載され、後にアンソロジーとして出版されました。またミステリとの融合も進んでおり、上に挙げたモノの他にも「探偵 AI のディープ・ラーニング」(早坂吝)などがあります。

小説ではなく技術書の枠ですが、川添愛の諸作品(「白と黒のとびら」「精霊の箱」「自動人形の城」など)はオートマトンや人工知能などのコンピュータの概念を上手くファンタジーに仕立てており、必読の作品です。

### ・数学的奇想を味わう

色々紹介してきましたが、やはり数学が難しいことは疑いもない事実(もちろん他の学問も)。しかし、その「難しさ」が「面白さ」でもあります。ということで最後はその「面白さ」

が小説の形に翻訳された作品たちを紹介しましょう。

「素数の呼び声」は素数周期の信号の受信に端を発するファーストコンタクトもの。やはりこのジャンルはSFの花なので入れてみました。「無限登山」は夏休みに二人の女の子が無限に高い山に登る話。敢えて入れてみた今回唯一のマンガ作品です。ドラえものの「バイバイン」の話でも良かったのですが、テーマが「指数犬」と被るので今回は避けました。他にも「球面世界」(高野文子)というマンガもあります。「エッシャー世界」はあのエッシャーの不可能物体が現実化した世界に迷い込むミステリ。見ることのできない数学の事象の数々を見事に表現したエッシャーの絵画はどれも素晴らしいです。「走れメデス」は古代ギリシャの数学者アルキメデスを主人公にした「走れメロス」。爆笑モノのホラ話です。そしてこの企画の最後を飾るのは、あの円城塔屈指の難解さ(つまり日本SF史上でもトップクラスの難解さ)を誇る第二作品集の表題作。数学的構造体が語る男女の恋愛小説です。円城塔は他にも数多くの難解な(=面白い)数学SFを書いています。

このジャンルはやはり数学小説の中でも最も面白く難解です。少なくとも1884年の「フラット・ランド」(エドウィン・アボット・アボット)まで遡れますが、他にも「第五の地平」(野崎まど)、「自己相似荘」(平谷美樹)、「無積の船」(麦原遼)、「 $\Omega$ の聖餐」(平山夢明)、「宇宙船オロモルフ号の冒険」(石原藤夫)、「エッシャー宇宙の殺人」(荒巻義雄)、「第四次元の小説」(アンソロジー)、「一千一秒物語」(稲垣足穂)など奇妙な作品が多々あってとてもフォローしきれません。

## —まとめ—

私は「数学が好き」^(かつ,共通部分)「読書が好き」という者なので、今まで読んできた小説の中で数学を扱ったものがあればコツコツ記録してきましたが、ある程度溜まってきたくともあり独自の視点でまとめてみました。心残りは、純文学系の作品、古典作品、海外作品、マンガをフォロー出来なかったことです。そのため実質的には現代日本人作家の数学SFアンソロジーになってしまいました。それらのジャンルで数学を扱った作品があれば是非教えてください。例えば夏目漱石とか、テッド・チャンとか。

今回選んだ20作は実際作ろうとすると現実的な分量ではないですが、そこは仮想アンソロジーということで見逃してもらえれば助かります。現在では中々入手が難しい作品もありますが気になる作品は是非探して読んでみて下さい。

## —底本一覧—

清水義範「数えられますか」『単位物語』(講談社)/高島雄哉「わたしを数える」SF Prologue Wave(<http://prologuewave.com/archives/4649/>)/向井湘吾「指数犬」『みんなの少年探偵団』(ポプラ社)/竹本健治「フォア・フォーズの素数」『フォア・フォーズの素数』(角川書店)/高橋文樹「pとqには気をつけて」『短篇ベストコレクション 現代の小説2019』(徳間書店)/森見登美彦「大日本凡人會」『四畳半王国見聞録』(新潮社)/松崎有理「5まで数える」『5まで数える』(筑摩書房)/樺山三英「庭、庭師、徒弟」『NOVA 6』(河出書房新社)/金子邦彦「カオス出門」『カオスの紡ぐ夢の中で』(早川書房)/沖方丁「日本改暦事情」『OUT OF CONTROL』(早川書房)/小林泰三「探偵助手」『見晴らしのいい密室』(早川書房)/宮内悠介「盤上の夜」『盤上の夜』(東京創元社)/小川一水「アリス女王の愛した魔物」『アリス女王の愛した魔物』(早川書房)/法月綸太郎「ノックス・マシン」『ノックス・マシン』(角川書店)/我孫子武丸「プロジェクト：シャーロック」『七人の名探偵』(講談社)/野尻抱介「素数の呼び声」『SFマガジン 700【国内篇】』(早川書房)/八木ナガハル「無限登山」『惑星の影さすとき』(駒草出版)/柄刀一「エッシャー世界」『ゴールムの檻』(光文社)/三方行成「走れメデス」『流れよわが涙、と孔明は言った』(早川書房)/円城塔「Boy's Surface」『Boy's Surface』(早川書房)



# ～人生の思索～

大学生と言ってもまだまだ悩みは多い年頃。友人関係に悩み、家族に悩み、そして進路に悩み…。そんな貴方に寄り添い、時に励まし、時には厳しく諭すような珠玉の一冊をどうぞ！

もちろん日頃のストレスを晴らすような面白い書籍も揃っています！

## 「砂漠」(伊坂幸太郎)

西図書館 2 階・開架 913.6/I-68

5人の大学生が主人公の東北を舞台にした青春小説。日常生活のなかで巻き起こる様々な事件を軸に、主人公たちの個性が生き生きと描かれている。社会という「砂漠」に出る前に許された、大学生活という「オアシス」をあなたは一体どう過ごすのだろうか。(形作り)

---

## 「論語」(金谷治訳注)

中央図書館 2 階・小型 123.83/Ko-84

「子曰く」から始まる孔子の言葉を、あなたはいくつ覚えているだろうか。〈子曰く、人の己を知らざるを患(うれ)えず、人を知らざるを患うるなり。〉相手が自分を分かってくれないことよりも、自分が相手の価値を認めようとしないことを心配しなさい。孔子の言葉の中には、現代でも通じる物事の本質が詰め込まれている。人としての自分の成長に疑問を感じ始めたとき、一度本書を開いてみると良いかもしれない。(瀬戸内れもん)

---

## 「ライ麦畑でつかまえて」(J.D.サリンジャー)

西図書館 2 階・小型 933/Sa-53

一部からは「元祖“厨二病”小説」とも呼ばれている青春小説の古典的名作。一言で言えば、高校を追われた17歳の主人公がクリスマス前のニューヨーク街を放浪する物語。世の中のことすべてが気に入らないという少年の不満と苛立ちの中に、生来より持ち合わせた純粋さが垣間見える。〈ライ麦畑のつかまえ役、そういうものに僕はなりたいんだよ。〉何かといわくつきの作品ではあるが、このタイトルだけは誰が見ても一級品。(瀬戸内れもん)

---

## 「李陵」(中島敦)

中央図書館 2 階・小型 913.6/N-34 ※「山月記・李陵 他九篇」に収録

匈奴との戦いで捕虜となり漢武帝の怒りにふれた李陵と、正義感から彼を弁護した結果「腐刑」を受けた司馬遷の二人の生き様を描く小説。理不尽な形で人生を狂わされた二人の葛藤と決意を落ち着きある文体で描く。彼らの選んだ生き方に映し出され著者の人生観に大きく共感を覚える一作。(ロードジャスティス)

### 「君たちはどう生きるか」(吉野源三郎)

中央図書館 2 階・小型 159.5/Y-92

本書は児童文学者である吉野源三郎が書いた歴史的名著と呼ばれた作品です。出版から 80 年もたった今でもあらゆる世代の人たちが生き方の指針となる言葉を物語の中から見出してきました。自分と見比べながら考えてみてほしい作品です。(W 田)

---

### 「蟹工船・党生活者」(小林多喜二)

東千田図書館小型 913.6/Ko-12

『蟹工船』は言わずと知れた日本プロレタリア文学の代表作。労働者が資本家に酷使され、彼らが次第に階級闘争の必要性に気付いていく過程を描いたもの。資本家はどこまでも残酷になれることを分かりやすく描いた点と、当時の肉体労働者の実態を垣間見ることができ点が個人的には気に入っています。『党生活者』は世間から隠れる必要がある人にとっては役に立つ記述が多い点がお薦め。(はかせ)

---

### 「深夜特急 1 香港・マカオ」(沢木耕太郎)

東千田図書館小型 915.6/Sa-94/1

あるサイトで「大学生が読んではいけない本」として紹介されていたバックパッカーの旅のバイブル。仕事も生活も全て投げ出して旅に出た〈私〉は、インドのデリーからイギリスのロンドンまで乗合バスで旅をする。著者の実話をもとにした紀行小説であり、一卷読むごとに自分と世界との距離がぐっと近くなる。授業のある学期中に読むのはおすすめしません。気がつけば課題そっちのけで、格安航空のサイト眺めることになりますよ。(瀬戸内れもん)

---

### 「いまさら翼といわれても」(米澤穂信)

西図書館 2 階・開架 913.6/Y-84

灰色の高校生活を望む省エネ系男子・折木奉太郎と、彼の所属する“古典部”の愉快的(?)仲間たちが送る「日常の謎」シリーズ第 6 弾。シリーズ 1 作目の『氷菓』は、青春ミステリのジャンルにおいて高い評価を受けており、アニメ化・映画化といったメディア展開もされている。ミステリ要素の強い『氷菓』と比べ、高校生の葛藤と将来への不安を繊細に描く本作もまた、青春ミステリの名にふさわしい作品となっている。(瀬戸内れもん)

---

### 「八甲田山死の彷徨」(新田次郎)

中央図書館 2 階・小型 913.6/N-88

冬の八甲田山で雪中行軍の訓練を行った青森 5 連隊は極寒の山中で遭難する。彼らに襲い掛かる恐ろしい運命を生々しく描いた作品。(T)

「ACTをはじめる セルフヘルプのためのワークブック」(スティーブン・C・ヘイズほか)  
中央図書館 2階 146.8/H-49

一人人にとっての幸福とは何でしょうか？ACTの立場では、自らの価値に沿った「行動をし続けること」が幸福であると考えます。しかし我々は時として苦痛な体験を避けようとするあまり、自分の殻に閉じこもったり不本意な行動をとったりしてしまいます。苦痛とうまく付き合い、自らの望む行動をし続けるためのサポートとなるのが本書です。(うるちやん)

---

### 「野宿入門」(かとうちあき)

西図書館 2階・開架 786/Ka-86

諸君、野宿をしよう。毎日決まった時間に、いつものあったかい布団で寝るだけの生活はぬるすぎる。ただ寝袋を担いでいだけで人間はどんな場所にも寝ることができる。一夜を明かした早朝の公園で見る朝焼けの美しさを君は知っているだろうか。己の知恵と度胸で寝床を開拓してゆくとき、君は真の自由を手にすることだろう。(ロードジャスティス)

---

### 「文鳥・夢十夜」(夏目漱石)

西図書館 2階・小型 913.6/N-58

表題作「文鳥」「夢十夜」など7編が収められた短編集。とりわけ夢十夜が素晴らしい。人々が意識下に抱く不安や恐怖を、夢という切り口で幻想的に炙り出した10編の物語はそのどれもが短いながらも心に深く刻まれる内容となっている。(形作り)

---

### 「六号病棟」(チェーホフ)

中央図書館 2階・小型 983/C-37 ※「六号病棟・退屈な話 他五篇」に収録

退屈な生活に飽き飽きした医師は精神病患者と話して気を紛らわせるが、周囲からは変人扱いされる。おかしいのは自分か世間か。組織や体制の空気に馴れ、普通の人ではなくなっている気がする人におすすめ。(はかせ)

---

### 「コインロッカー・ベイビーズ」(村上龍)

中央図書館 2階 913.6/Mu-43(上,下)

当時の社会問題を題材にした小説ですが、この物語のキモは社会風刺ではなく、恐らくは自分たちを閉じ込める物・人・制度への破壊衝動とその実践なのだと思います。最初の一文を読めたなら、あとは最後まで流れるように読めるでしょう。一方で、最初の一文で読むのをやめたいと思ったなら、その感覚に従うべきだと思います。以後、同様かそれ以上に強烈な文章を読まないといけないのですから。(はかせ)

### 「飼育」(大江健三郎)

中央図書館 2 階・小型 913.6/O-18 ※「大江健三郎自選短篇」に収録

ノーベル賞作家・大江健三郎の芥川賞受賞作。マタギの家の少年である主人公の村に不時着した外国人パイロットを「飼う」話。パイロットとの交流を通じて、主人公は生活のなかに充満していた死の匂いの本当の意味を知り、それは深い傷跡として一生刻まれてゆくことになる。愛玩と恐怖、共感と不信、異常な状況描写のなかで人間のもつ原始的な残虐性がこれでもかとばかりに生々しく表現されている。(ロードジャスティス)

---

### 「人生の短さについて 他 2 篇」(セネカ)

中央図書館 2 階・小型 131.5/Se-61

これはすべての若者に読んでもらいたい。今すぐに。社会に出てからではもう遅い。その前くらいが丁度いい。古代ローマの哲学者セネカによる人生指南。〈(前略) われわれは、短い人生を授かったのではない。われわれが、人生を短くしているのだ。われわれは、人生に不足などしていない。われわれが、人生を浪費しているのだ。〉ではどうすれば有意義な人生を送れるのか。それは実際に本書を手にとって読んでほしい。(瀬戸内れもん)

---

### 「ドグラ・マグラ(夢野久作全集 4)」(夢野久作)

中央図書館 2 階 918.68/Y-97/4

精神病科の施設に収容された青年が意識を取り戻し、医師の話や資料を読み解いて、ある事件の経緯を次第に把握していく、という話。作り込みすぎていてエネルギーですが、それによって気楽に読もうとする者を拒む独特の雰囲気があります。日本三大奇書の一つという評価は伊達じゃない。(はかせ)

---

### 「タタール人の砂漠」(ブツァーティ)

中央図書館 2 階・小型 973/B-97

カフカの再来と称された筆者によって描かれた幻想文学の古典。主人公は辺境にある無用の長物に近い砦で、来襲するかどうかもわからない敵を待ち続ける。孤独な主人公や不条理な展開で、誰しもが人生に抱く甘い期待に対し警鐘を鳴らす作品。(形作り)

---

### 「嫌われる勇氣」(岸見一郎, 古賀史健)

西図書館 2 階・開架 146.1/Ki-58

「人はいま、この瞬間から幸せになることができる。」心理学の三大巨頭と称されるアルフレッドアドラーの思想を青年と哲学者の対話を用いて表した一冊です。人生において抱える様々な悩みに対処するシンプルかつ具体的な考え方が提示しています。大学生となり自分のやりたいことができ、悩める時期だからこそ自分と照らし合わせて考えてほしい本です。(W 田)

「日本の真髄 量子力学から見た天壤無窮の真実」(比嘉照夫)

中央図書館 2階 155/H-55

著者は土壌改善に効くとされる菌(通称 EM 菌)を開発した人物であり、疑似科学による商法が疑われている。本書はそんな著者による日本神話の量子論的解釈及び独特な国家観・科学観が記されている。量子論を毎日考えている者からすると噴飯物の記述が多く、腹筋が痛くなるほど笑えるのもありました。笑いに飢えている学生向けです。実は私が図書館に購入依頼をしました。税金が一部でも使われているとしたらちょっぴり良心が痛みます。(はかせ)

---

「モモ」(ミヒャエル・エンデ)

西図書館 2階・123冊 943/E-59

「時間」をテーマにしたファンタジー。街外れの闘技場跡に一人で暮らしていた主人公のモモだが、友人が訪ねて来なくなったため街に出てみると、そこには奇妙な忙しさがあつた…。時間の流れというものは人間の感覚からすると相対的なものであるが、この作品では時間を定量化することでそのことに気づかせてくれる。私たちは時間を有意義に使っているだろうか?時間を無駄にせず本を読みたいものである。(pn675)

---

「車輪の下」(ヘルマン・ヘッセ)

西図書館 2階・小型 943.7/H-53

超エリート学校に入学し勉強勉強のクソみたいな毎日に抑圧されまくり自殺してしまう少年の物語です。しかし彼には心の通じ合う友人がいました。いたいけな少年たちがひそかに友情を交し合うシーンはとても美しく心を打たれます。そしてひたすらドイツの自然の描写が美しい。はかない美少年とドイツの自然、最高です。私もシュヴァルツヴァルトに行きたい。(うるちゃん)

---

「転換期を生きるきみたちへ」(内田樹)

中央図書館自動書庫 304/U-14

「若者たちがこれからの時代を生き延びるための知恵と技術がつまった、未来へ向けた 11 のメッセージ。」本書では中高生に向けてとありますが、大学生にとっても意味のある内容になっています。内容は 11 名の様々な分野の専門家が自分の分野において現代の若者に伝えておきたいことが書かれています。(W田)

---

「アルケミスト 夢を旅した少年」(パウロ・コエーリョ)

西図書館 2階・小型 969.3/C-83

『アルケミスト』というタイトルに対して、本作品の主人公は、旅好きの一人の羊飼いの少年である。彼はある夢を見る。それはエジプトのピラミッドに行けば、そこに隠された宝物を発見できるというものだった。ある老人の言葉をきっかけに、彼は長い旅に出ることを決心する。目の前に広がる世界を十分に楽しみ、それでいて大事なものは手放さない。「自分にとっての『幸せ』と何か?」という問いに答えてくれる一冊。(瀬戸内れもん)

「羊をめぐる冒険」(村上春樹)

中央図書館 2階 913.6/Mu-43

宣伝に使った写真に奇妙な羊が写っていた不運をきっかけとして北海道へと旅立つ主人公。トントン拍子のダイナミックな物語と、どこか冷めていてキザな主人公の言動とが魅力的。(はかせ)

---

「沈黙」(遠藤周作)

西図書館 2階・123冊 913.6/E-59

江戸時代初期に日本を訪れたポルトガル人宣教師たちがキリシタン狩りに抵抗する話。苦難に満ちた時代を耐えぬく人間の強靱さと、屈する人間の脆弱さが容赦なく描かれる。そんな弱者に対しても平等に救いをもたらすのが神の役割であるはずだが、宣教師が目にしたのは無辜の人々が虐げられ次々と命を落としてゆく姿であった。クリスチャンの作者による「神は救いを乞う人々の願いを聞き入れるか」という根源的な問いが凝縮されている。(ロードジャスティス)

---

「四畳半神話大系」(森見登美彦)

中央図書館 2階・小型 913.6/Mo-54

京大に入学した主人公はバラ色のキャンパスライフを手に入れるため、これほと思うサークルに入るものの、人間関係には恵まれず、残ったのはぬらりひよんの小津だけ。独特な言い回しと個性的な登場人物による物語は笑いの連続。(はかせ)

---

「渡辺のわたし 新装版」(齊藤斎藤)

西図書館 2階・開架 911.16/Sa-25

口語調で庶民的な言葉で紡がれた現代短歌が収められた歌集。短歌のルールを無視したような作品もあり自由奔放な印象を受ける一方で、「わたし」という存在の不確かさを歌ったものなど一句一句に対して深く考えさせられる。(形作り)

---

「重力の虹」(トマス・ピンチョン)

中央図書館 2階 933/P-57(1,2)

アメリカの大学生が選ぶ、「読んでないけど読んだふりをする本」No1。原文は長文が連続し、かつ難解を極め、内容のカオスさは他の追随を許しません。翻訳者の苦勞が偲ばれます。著者が創作した流体力学の数式の解説、電球が電球業界の内部事情を独白するシーン等々、変わったものを読みたい方におすすめてです。このような本を母国語で読めるなんて、とても素晴らしいことだと思いませんか？(はかせ)

### 「何者」(朝井リョウ)

西図書館 2階・開架 913.6/A-83

就活を目前に控えた大学生 5 人の物語。〈就活がつらいものと言われる理由は、ふたつあるように思う。ひとつはもちろん、試験に落ち続けること。(中略) そしてもうひとつは、そんなにたいしたものではない自分を、たいしたもののように話し続けなくてはならないことだ。〉自分だけが知っている本当の自分と、面接で必死にアピールをする偽りの自分。私は一体「何者」なのだろうか。これから就活を始めるといふ人はぜひ。(瀬戸内れもん)

---

### 「氷壁(井上靖小説全集 13)」(井上靖)

西図書館書庫 913.6/I-57

清く美しい南アルプスに挑む登山家たちの友情そして純粋な冒険心と、爛れた都市社会に生きる人間の生活との対比が鮮やかな一作。峻厳とそびえ立つ奥穂高の氷壁に魅せられた主人公はそこで無二の親友を亡くすことになる。それでも頂に挑もうとした主人公を突き動かしたのは何か。安穏とした生活のその先にあるものこそが生きることの本当の意味なのかもしれない。作者の人生と社会を見つめる冷静な視点に驚かされる。(ロードジャスティス)

---

### 「地下室の手記」(ドストエフスキー)

西図書館 2階・小型 983/D-88

量子論や深層心理が発見される以前の時代にこの小説は発表されました。そのため、この小説には古典物理学的世界観に基づいた記述が多々見られ、心理の描写は素朴です。一方で、自意識過剰で、傲慢で、人との接し方が下手だからこそ傷つきやすい主人公は、どこか現代的な人間にも見えます。寧ろそんな人間は古今東西を問わずにいるのでしょうか。本書は、人間を古典的世界観で描写した小説の中では最高傑作だと個人的には思っています。(はかせ)

---

### 「燃えよ剣」(司馬遼太郎)

西図書館書庫 913.6/Sh-15/上,下

新撰組副長・土方歳三の生涯を描いた歴史小説。司馬文体によって紡がれる、卑しい生れの土方が時代の動乱に乗じて己の剣と才覚で歴史に爪痕を残そうともがく姿のあまりのカッコ良さに、中学生の時に読んで猛烈に影響された。具体的に言うと教室で毎日チャンバラをしていた。逆境を選び取りながらも時代に名を残そうとする強烈な執着心はまさしく狂人そのものだが、そんな意志の強さが人に何かを成し遂げさせることを教えてくれる。(ロードジャスティス)

---

### 「斜陽」(太宰治)

西図書館 2階・小型 913.6/D-49

生きるということは醜く薄汚いことであり、死にゆくものは美しい、と本書の主人公は語ります。しかし彼女は生きることに絶望しているわけではありません。その醜さや薄汚さを引き受けて、力強く生きていくことを彼女は選択します。(うるちゃん)

「星新一 一〇〇一話をつくった人」(最相葉月)

中央図書館 2階 910.26/Sa-22

SF作家「星新一」の評伝。中高時代に彼のショートショートを読んだことがある方は多いのではないだろうか(掲載されている教科書もある)。この作品からは、そんな彼の生い立ち、SF作家に限らない幅広い交遊関係、そしてその評価故の苦悩を知ることが出来る。一作家としては異常なレベルで詳細な内容となっているが、あとかきの最後の一文から著者の意図と決意も感じることが出来るだろう。(pn675)



# 朝井リョウ作品、紹介するってよ

—私の読んだ作品の中から気になった一文を添えて—

瀬戸内れもん

朝井リョウ氏の作品を読む上で、付箋の準備は欠かせない。というのも、氏の作品を読みすすめていると、突として、息を呑むほどの素晴らしい一文に出会うことがあるからである。朝井リョウという作家は、比喩表現（直喩、暗喩問わず）が抜群に上手い。たとえば、「AのようなB」という表現があるとすると、この「Aのような」の精度が著しく高い。もうこれ以上にびったりな表現はないのではないかと思うほど、美しい喩え方をする。

そこで今回は、私の独断と偏見で選んだ朝井リョウ作品6冊を、私の趣味嗜好で選んだ一文を添えて紹介していく。加えて350字程度の解説も書いたが、そこはべつに重要ではない。各作品の表紙とタイトル、そして珠玉の一文を目に焼き付けて、書店へと足を運んでもらいたい。



この空の分だけ大地がある。  
世界はこんなに広いのに、僕らはこんなに  
狭い場所で何に怯えているのだろう。

（『桐島、部活やめるってよ』「前田涼也」より）

バレー部キャプテンの桐島が部活を辞めた。しかし、この小説に桐島は出てこない。「いや、桐島出てこないのかよ！」と読みながら自分でツッコミを入れてしまった。でも安心してほしい。本書の主人公は桐島ではない。部活もカーストも全く違う5人の生徒たちの物語である。▼「学校は社会の縮図」とはよく言われるが、当の本人からしてみれば、学校生活は自分の世界のすべてである。前髪が1cm変わるだけで、周囲の自分に対する評価も変わる。と、本気で思い込んでしまう年頃である。思春期とは、それほどに繊細で壊れやすい。▼「井の中の蛙大海を知らず」ということわざの続きとして「されど空の青さを知る」という言葉がある。空を眺めて世界の広さを知り、今の自分の小ささに気づいたのなら、その狭い井戸から出た後もきっとなんとかやっていけるはずである。



海を分母に、空を分子にしたら、  
1を超えるのだろうか。

(『もういちど生まれる』表題作より)

二十歳前後の若者（大学生、浪人生、専門学生）を語り手に据えた5つの連作短編集。〈高校を卒業してから社会に出るまでの数年間は、どうしたって「瑞々しい」。〉解説の西加奈子氏の言葉である。▼〈何故なら、高校生のときはそのまさに渦中にあった輝きを、失い始める時期だから。〉そう、そうなのだ。大学卒業を間近に控えた私もそれを痛いくらいに感じている。高校生の青春なんてものは、今の自分には眩しすぎる。▼表題作『もういちど生まれる』は双子の姉妹の話である。出来の良い姉をもつ妹の目線で語られる心情は、なんとというか、焦れたい。どれだけ姉に憧れても、姉本人になることはできない。本人もそれを理解した上でもがいている。▼別に1を目指さなくてもいい。そう思えるきっかけさえあれば、きっと世界の見え方も変わってくるだろう。



先輩は数学と世界史が得意でした。(中略)

先輩の書く  $a$  と  $\Sigma$  の形が好きでした。

先輩がフリーハンドで描く美しい二次関数と

(『少女は卒業しない』「在校生代表」より)

「どれだけ先輩好きやねん！」と、これまたツッコミを入れてしまった。きっと私だけではない。この公開告白を聞いていた卒業生、在校生、教員・保護者、そして先輩本人ですら、心の中でツッコミを入れたことだろう。こんな送辞は今までに聞いたことがない。▼翌日に校舎が取り壊されるというある高校の卒業式の日を、7人の少女の視点から描いた群像劇。誰にとっても“最後”となる卒業式を、ただの通過点として過ごすのは少しもったいない。▼「在校生代表」は、在校生の送辞が卒業する先輩に宛てた告白となっており、それが小説として成立している。送辞を読んだ経験のある私に言わせてみれば、これがまたいい意味でめっちゃくちゃである笑。▼これまで秘めてきた自分の思いを誰かに伝える。この高いハードルを乗り越えるためには”最後”という後押しが必要となるのかもしれない。

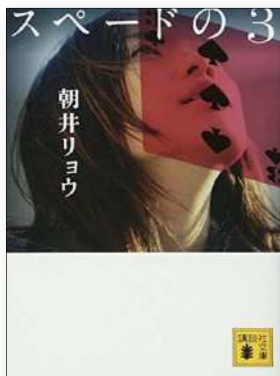


想像力が足りない人ほど、  
他人に想像力を求める。

他の人間とは違う自分を、  
誰かに想像してほしいとたまらないのだ。

(『何者』より)

就活を目前に控えた大学生5人の物語。私が初めて読んだ朝井リョウの作品がこれだった。とても面白かったのだが、読むにつれてページをめくる手が重くなっていった。当時大学2年の頃である。▼多くの大学生において、就職活動に成功することは一つのゴールであり、今後の人生を歩む上での重要なスタート地点に立つことに等しい。ゆえに、就活の現場では本音を隠して建前を弄し、仲間内であっても騙し合いが始まる、ということもしばしばある。それだけ本気なのである。▼「学生時代に頑張ったことはなんですか?」「はい、部活動で部長を務めたことです。長所であるリーダーシップを発揮し…」▼どれだけ話を盛って耳当たりの良い業績を並べても、しよせん自分は自分。何者でもない。しかし悲しいことに、自分を偽りでもしないとやっていけないのが、日本の就活であるというのもまた事実である。



どんな映画だって漫画だって小説だって、  
主人公になるのは、道を覚えられなくてみんなに探  
されるような子だ。

(『スペードの3』「第3章 ダイヤのエース」より)

トランプ遊びの「大富豪」をご存知だろうか。本書のはじめのページには、その「大富豪」のルールが簡単に紹介されている。場に出すカードの強さ、革命、都落ち...などなど。▼本書には、有名劇団のかつてのスター、そのファンクラブのリーダー格の女性、そしてファンクラブ新人会員の女性が登場する。大富豪のルールに喩えられたストーリーの変化がギミックとしてはたらき、彼女たちの人生を大きく左右する。▼人は、誰もが自分の人生の主人公である。しかし、自分の周りの世界が、いつも自分を中心に回っているとはかぎらない。むしろ、自分が世界の中心になることのほうが少ない。▼「どれだけ待っても、革命なんて起きない」。脇役は持ちうる手札を握りしめて全力で挑み続けるしかない。そうすることが、自分の人生の主人公でありつづけるための唯一の方法である。



堪えきれなくなつて、私はちらりとおじさんのほうを見た。  
(中略) 浮浪者という感じでは全くない。ほ、と一息ついた  
ところで、私はこの目で確認してしまった。

おじさんの下半身は黒タイツのみであることを。

(『時をかけるゆとり』より)

戦後最年少の直木賞受賞作家・朝井リョウの初エッセイ集。他の作品では若者たちの心に潜む迷いや葛藤を緻密かつ繊細に、リアリティ溢れる文章で描いていたが、著者が自身の大学生活をエッセイにするとこれがめっちゃめっちゃ面白い。超笑った。▼私は電車の中で本書を読んでいたのだが、ずっと笑いをこらえていた覚えがある。マスクをしていたからまだ良かったものの、なければ変人として認識されていただろう。よって公共の場で読むときは注意すること。▼かと思えば、依頼されて真面目に書いたエッセイは超かっこいい。複雑で捉えがたい若者たちの心理が著者の鋭い観察眼により切り出され、若者特有の思考に沿ってうまく言語化されている。まあ、その真面目な文章ですら、著者自身がツッコミを入れているのがまた笑えてくるのだが笑。

朝井リョウの魅力はこの程度では収まらない。ここで紹介していない作品もまだまだある。

- ・『チア男子!!』
- ・『星やどりの声』
- ・『世界地図の下書き』
- ・『武道館』
- ・『世にも奇妙な君物語』
- ・『ままならないから私とあなた』
- ・『何様』
- ・『死にがいを求めて生きているの』
- ・『風と共にゆとりぬ』(エッセイ) など

今回紹介した作品に加えて、気になる作品があればぜひ手にとって読んでみてほしい。書き出しの文章を読むだけで、興味を惹かれるはずである。あと、自分で購入して読むときは付箋の用意も忘れずに。

# 森見登美彦作品の主人公はめちゃくちゃ

## カッコいい

ロードジャスティス

もし相手が受験を控えた高校生か、あるいは大学生であるという情報のみで誰かに小説を勧めるとしたら、まず森見登美彦の作品を勧めるだろう。そして森見文体の織りなす濃厚で独特な世界観に触れて悶絶してほしい。受験生ならありもしない薔薇色のキャンパスライフを夢想してより一層受験対策に身が入るだろうし、学生ならいかに自分の置かれている環境が惨めで無様なものを改めて自覚して憂いに耽ることだろう。もちろん小説の感想は各々勝手に抱いてくれればいいのだけでも、森見登美彦を脳内に注入してその手の症状が出る人間は恐らくもう「こちら側」に片足を突っ込んでいるはずだ。仲良くしよう。

さて、このページでは森見登美彦の作品中で描かれがちな主人公像を概観しつつ、その主人公がいかにカッコいいかという話をしたい。筆者は『四畳半神話大系』のキャラクターで誰が一番好きかと聞かれたらヒロインの明石さんでも悪友の小津でもなく迷わず主人公の「私」と答えるだろう。それは何故か。

森見作品を読み慣れた方ならば伝わるだろうが、主人公はまず男子学生で、一様にちょっと情けない(?)感じがする。『ペンギン・ハイウェイ』や『有頂天家族』など学生が主人公でない例外はいくつかあるが、細かい設定の違いはあれど概ね同じような人物像が繰り返し選ばれている。そして「恋愛」というテーマが最大の問題として主人公に課されていることが多い。ヒロインに対して躊躇しがちで後手に回り続ける彼らは、一般的な観念からすれば恋愛における弱者である。しかし、この恋愛という舞台は、森見が読者が入り込めるレベルまで主人公の敷居を下げるためにあえて持ち出したものに思える。彼らが何となく情けなく見えるのは要するに恋愛が物語のうえで大きなトピックだからである。

ところで、もう一つの森見作品お決まりの特色としてディテールの奇想天外さがある。森見の読者ならば闇の古本市や秘密結社、韋駄天コタツなど、トンチキな概念が無数にあふれ出すさまが面白くて堪らないという人は多いはずだ。なぜ森見の描くトンチキ概念は面白いのか。ざっくり言うならば、ひとつはそれらが未知への探求心をくすぐるフロンティアであるからで、ひとつは社会規範を逸脱するほどに諧謔に満ちているから<sup>1</sup>である。ある種浮世離れしている、しかし謎に満ちていて魅力的な世界観こそが森見作品の真骨頂といえるだろう。

主人公は時にそんなカオスの構成員となって阿呆なことをやらかす一方、ものによってはくだらないと切り捨てたり敵対関係になったりする。彼は基本的に自らの理性で物事を判断し行動し—ヒロインとの関係については性欲と理性の間で葛藤するが—社会規範を顧みずに

---

<sup>1</sup> 要するにこの大学祭で見ることが難しいタイプのもの

飛び込んでゆく。すなわち闇鍋の中から自らの基準でもって益たるものを掴み取ろうとする、孤高なる真理の探究者とでもいべきあり方が彼らの本質だといえる。これほど美しく誠実な生き方があるか。ゆえに彼らはカッコいい。

しかし、彼らは常に悩み続ける存在でもある。探求者としてあり続けるためにはそれだけの資格を示すことが必要だが、彼らにはその自信がない。そして最後には彼ら自身が必要以上に自分を大きく見せるのをやめ、ただ個人としての思いに向き合うことでヒロインへの道が開かれる形で終わることが多い。大学生を取り巻く文脈において、己の能力を証明できない人間を追いかけてくるものこそ社会規範であり、学問なり何なり真理の探究に近い営みも社会の制約なしには成り立たないというある種の痛みを伴うストーリーが下地にあるからこそ、葛藤を引き受けた末に一步前進する主人公たちがとりわけ愛おしく思えるのかもしれない。

さて筆者自身は森見登美彦を読むようになってから、生活の節々で「森見作品の主人公たちならどうしたか」「今はどの本のどの章に近いか」などと考えるのが癖になってしまった。責任者を問いただす必要がある。俺にもそろそろあちら側の景色を見せてくれ。

# 読みたい本がなかった時は…(図書館篇)

文責：pn675

図書館に行って探してみても求める書籍がなかった場合、広島大学図書館 OPAC の検索結果によって次のような手段があります。

## 広島大学図書館にある場合

### ・他のキャンパスの図書館にある場合

広島大学図書館の OPAC より依頼できます。貸出期間は変化なし。到着まで約 1 週間かかります。

### ・研究室にある場合

基本的に自ら研究室を訪問する必要があります(同キャンパスの場合)。突然行っても担当者が不在で空振りになることがあるので、事前にメールなどで確認を取ったほうが良いでしょう。かなり面倒くさいので、諦めて公共図書館から借りの方が楽だったりします(個人の感想)。

## 広島大学図書館にない場合

相互利用サービスによって他の図書館から取り寄せることができます。中でも比較的簡単な広島市立図書館、東広島市立図書館、広島県立図書館から取り寄せる方法を解説します。

基本的に所蔵の有無は各図書館の OPAC で調べることが出来ますが、上記の 3 館の所蔵状況については、広島大学図書館の OPAC で検索する際に、一番右のタブ[書店・公共図書館]を選択して検索すると、一度に調べることが出来ます。



個別に検索したい場合はそれぞれチェックする

### ・広島市立図書館

広島大学図書館との提携により、利用者カードが無くても借りることが出来ます。一人 5 冊、貸出期間は 2 週間です。申し込みから広島大学到着まで 1 週間程度かかります。

広島大学の専用ページ( [https://www.lib.hiroshima-u.ac.jp/?page\\_id=248](https://www.lib.hiroshima-u.ac.jp/?page_id=248) )より手順に従って手続きして下さい。

※基本的に広島大学図書館に所蔵されていないものを依頼しましょう。

### ・東広島市立図書館

広島大学図書館で受け取ることが出来ますが、一度どこかの館に行って利用者カードを作る必要があります。こちらは一人10冊、貸出期間は1ヵ月程度。中央館 or サンクス館の書籍は火曜日までに申し込みばその週の金曜日に受け取ることが出来ます。

東広島市立図書館( <https://lib.city.higashihiroshima.hiroshima.jp/> )の OPAC より申し込みます。メールを登録しておけば通知を受け取ることが出来ます。

詳しくは利用の手順( [https://www.lib.hiroshima-u.ac.jp/?page\\_id=16987](https://www.lib.hiroshima-u.ac.jp/?page_id=16987) よりダウンロード出来ます)をご覧ください。

実際に来館して借りる場合、各館ごとに5冊借りることが出来ます。現実的に行ける場所は中央館、サンクス館でしょうか。頑張れば黒瀬館にも行けないことはないかも知れません。

※基本的に広島大学図書館に所蔵されていないものを依頼しましょう。

### ・広島県立図書館

こちらも利用者カードが必要です。所在地は東広島市からは少々遠いですが郵便による申し込みも出るようなので、都合に応じて検討して下さい。一人10冊、貸出期間は発送連絡メールから3週間です。1回延長できるようです。

こちらも広島県立図書館( <http://www2.hplibra.pref.hiroshima.jp/> )の OPAC より手続きして下さい。

※基本的に広島大学図書館に所蔵されていないものを依頼しましょう。

### 取り寄せ

相互貸借によって他の図書館の本を取り寄せることが出来ます。但し、広島大学図書館で頼むと基本的には送料などの実費がかかりますが、公共図書館で頼むと料金がかからない場合があるので、西条地域に住んでいる方なら東広島市立図書館で、他の自治体の方はその街の公共図書館でリクエストするという手もあります(例外の可能性があるので各自確認して下さい)。

※研究に使うものは出来るだけ大学図書館に依頼しましょう。

### リクエスト

最後の手段として、広島大学図書館に購入のリクエストをすることが出来ます。左の[利用者メニュー]の[新規購入依頼]より申し込んで下さい。但し、書籍によっては時間がかかったり、購入されないこともあります。また、年度末になると予算が切れて受付が停止される場合もあります。

公共図書館にも同様のサービスがあるので、希望する書籍の種類によってはそちらも検討して下さい。



# 読みたい本がなかった時は…(書店篇)

文責：pn675

図書館に読みたい本が入っていなかった場合は購入することを考えると思いますが、西条地域にあるそれぞれの書店の特徴についてまとめてみました。

## 新刊書店

### ・広島大学生協

広島大学構内に広島大学生協の書籍部門があります。生協組合員は常に10%OFFで買える他、セールで更に割引されている時もあります。

また、ネットショッピングサイトが存在し、Web上で注文することも出来ます。書籍によって変わりますが、在庫が取次に存在する場合は約1週間で届きます。

( <https://mall.seikyoe.ne.jp/shop/WFTankyoTop.aspx?t=6877> )

### ・その他

フタバ図書、TSUTAYA、啓文社などのチェーン書店の他、個人書店(森書店)もあります。お好きな所へ行って下さい。個人的には書店の振興のためリアル書店で買ってもらえると嬉しいです。

## 中古書店

西条地域には現在4つの中古書店がありますが、それぞれの特徴について解説します。([行きやすさ]は広島大学からです。)

### ①フタバ図書 広大前店

行きやすさ : ★★★★★  
品揃え : ★★★☆☆  
強いジャンル : 特になし  
価格 : 普通(100円本あり)

### ③BOOKOFF 西条中央店

行きやすさ : ★★★★★☆☆  
品揃え : ★★★★★☆☆  
強いジャンル : 一般書籍、教科書  
価格 : 普通(100円本あり)

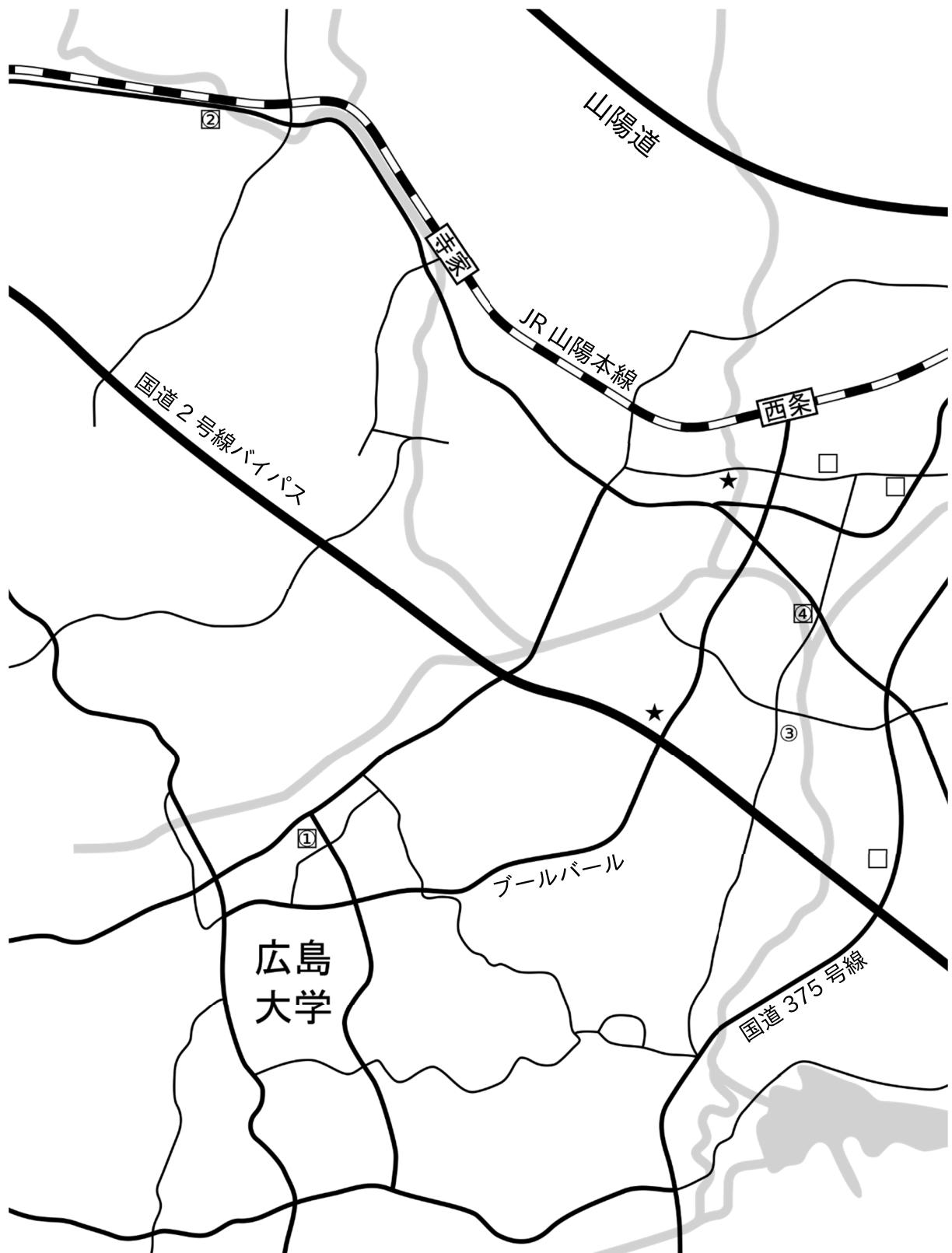
### ②フタバ図書 八本松店

行きやすさ : ★★★☆☆  
品揃え : ★★★★★☆☆  
強いジャンル : マンガ、ライトノベル  
価格 : 普通(100円本あり)

### ④お宝買取団 東広島店

行きやすさ : ★★★★★☆☆  
品揃え : ★★★★★☆☆  
強いジャンル : マンガ、セットマンガ  
価格 : 高め

ここを廻ってもない場合、広島市に出てBOOKOFFやアカデミー書店に行ってみましょう。



[地図]西条地域内の図書館・書店

★…図書館      □…新刊書店      ①～④…中古書店

※OpenStreetMap(<https://www.openstreetmap.org/>)の地図データをトレース、改変

# 読みつぶしリスト

チェック	ジャンル	書名
<input type="checkbox"/>	1	未知の世界 単純な脳、複雑な「私」
<input type="checkbox"/>	2	未知の世界 多面体の折紙
<input type="checkbox"/>	3	未知の世界 哲学用語図鑑
<input type="checkbox"/>	4	未知の世界 西洋護符大全
<input type="checkbox"/>	5	未知の世界 ツチノコの民俗学
<input type="checkbox"/>	6	未知の世界 統計学図鑑
<input type="checkbox"/>	7	未知の世界 言語学の教室
<input type="checkbox"/>	8	未知の世界 世界で一番美しい元素図鑑
<input type="checkbox"/>	9	未知の世界 曲線の事典
<input type="checkbox"/>	10	未知の世界 ビックリするほど素粒子がわかる本
<input type="checkbox"/>	11	未知の世界 奇っ怪建築見聞
<input type="checkbox"/>	12	未知の世界 ライフゲームの宇宙
<input type="checkbox"/>	13	未知の世界 フューチャー・イズ・ワイルド
<input type="checkbox"/>	14	未知の世界 白と黒のとびら
<input type="checkbox"/>	15	未知の世界 有機化学美術館へようこそ
<input type="checkbox"/>	16	未知の世界 さつまいもと日本人
<input type="checkbox"/>	17	未知の世界 明治大正翻訳ワンダーランド
<input type="checkbox"/>	18	未知の世界 教養として知っておくべき 20 の科学理論
<input type="checkbox"/>	19	未知の世界 植物はそこまで知っている
<input type="checkbox"/>	20	未知の世界 現代の量子力学
<input type="checkbox"/>	21	未知の世界 数学の秘密の本棚
<input type="checkbox"/>	22	未知の世界 史上最強図解これならわかる！機械工学
<input type="checkbox"/>	23	未知の世界 ニッポン大音頭時代
<input type="checkbox"/>	24	社会の視点 知識人とファシズム 近衛新体制と昭和研究会
<input type="checkbox"/>	25	社会の視点 すばらしい新世界
<input type="checkbox"/>	26	社会の視点 そして誰もいなくなった
<input type="checkbox"/>	27	社会の視点 華竜の宮
<input type="checkbox"/>	28	社会の視点 進化と人間行動
<input type="checkbox"/>	29	社会の視点 折りたたみ北京 現代中国 SF アンソロジー
<input type="checkbox"/>	30	社会の視点 火の鳥 太陽編
<input type="checkbox"/>	31	社会の視点 地球にちりばめられて

<input type="checkbox"/>	32	社会の視点	砂の女
<input type="checkbox"/>	33	社会の視点	アーロン収容所 西欧ヒューマニズムの限界
<input type="checkbox"/>	34	社会の視点	帰ってきたヒトラー
<input type="checkbox"/>	35	社会の視点	京都の歴史を歩く
<input type="checkbox"/>	36	社会の視点	死体は語る
<input type="checkbox"/>	37	社会の視点	空色勾玉
<input type="checkbox"/>	38	社会の視点	緋色の研究／四人の署名／バスカヴィル家の犬／恐怖の谷
<input type="checkbox"/>	39	社会の視点	ジェノサイド
<input type="checkbox"/>	40	社会の視点	大地
<input type="checkbox"/>	41	社会の視点	斷腸亭日乗
<input type="checkbox"/>	42	社会の視点	完全教祖マニュアル
<input type="checkbox"/>	43	社会の視点	3001年終局への旅
<input type="checkbox"/>	44	社会の視点	破戒
<input type="checkbox"/>	45	社会の視点	図書館の魔女
<input type="checkbox"/>	46	社会の視点	ジーンワルツ
<input type="checkbox"/>	47	社会の視点	だれも知らない小さな国
<input type="checkbox"/>	48	社会の視点	20世紀とは何だったのか 「西欧近代」の帰結
<input type="checkbox"/>	49	社会の視点	図書館戦争
<input type="checkbox"/>	50	社会の視点	黒い家
<input type="checkbox"/>	51	社会の視点	本で床は抜けるのか
<input type="checkbox"/>	52	社会の視点	新しい1キログラムの測り方
<input type="checkbox"/>	53	社会の視点	鹿の王 生き残った者
<input type="checkbox"/>	54	社会の視点	生体解剖 九州大学医学部事件
<input type="checkbox"/>	55	社会の視点	平成金融史 バブル崩壊からアベノミクスまで
<input type="checkbox"/>	56	探求の方法	いかにして問題をとくか
<input type="checkbox"/>	57	探求の方法	鳥取環境大学の森の人間動物行動学シリーズ
<input type="checkbox"/>	58	探求の方法	全国アホ・バカ分布考
<input type="checkbox"/>	59	探求の方法	ガロア 天才数学者の生涯
<input type="checkbox"/>	60	探求の方法	バッタを倒しにアフリカへ
<input type="checkbox"/>	61	探求の方法	教養としての大学受験国語
<input type="checkbox"/>	62	探求の方法	数学文章作法(基礎編,推敲編)
<input type="checkbox"/>	63	探求の方法	志学数学 研究の諸段階～発表の工夫
<input type="checkbox"/>	64	探求の方法	物理数学の直観的方法
<input type="checkbox"/>	65	探求の方法	英語が面白くなる東大のディープな英語
<input type="checkbox"/>	66	探求の方法	もっとヘンな論文
<input type="checkbox"/>	67	探求の方法	聞く力 心をひらく35のヒント
<input type="checkbox"/>	68	探求の方法	方法序説

<input type="checkbox"/>	69	探求の方法	思考の整理学
<input type="checkbox"/>	70	探求の方法	ご冗談でしょう、ファインマンさん
<input type="checkbox"/>	71	人生の思索	砂漠
<input type="checkbox"/>	72	人生の思索	論語
<input type="checkbox"/>	73	人生の思索	ライ麦畑でつかまえて
<input type="checkbox"/>	74	人生の思索	李陵
<input type="checkbox"/>	75	人生の思索	君たちはどう生きるか
<input type="checkbox"/>	76	人生の思索	蟹工船・党生活者
<input type="checkbox"/>	77	人生の思索	深夜特急 1 香港・マカオ
<input type="checkbox"/>	78	人生の思索	いまさら翼といわれても
<input type="checkbox"/>	79	人生の思索	八甲田山死の彷徨
<input type="checkbox"/>	80	人生の思索	ACTをはじめのセルフヘルプのためのワークブック
<input type="checkbox"/>	81	人生の思索	野宿入門
<input type="checkbox"/>	82	人生の思索	文鳥・夢十夜
<input type="checkbox"/>	83	人生の思索	六号病棟
<input type="checkbox"/>	84	人生の思索	コインロッカー・ベイビーズ
<input type="checkbox"/>	85	人生の思索	飼育
<input type="checkbox"/>	86	人生の思索	人生の短さについて 他2篇
<input type="checkbox"/>	87	人生の思索	ドグラ・マグラ(夢野久作全集 4)
<input type="checkbox"/>	88	人生の思索	タタール人の砂漠
<input type="checkbox"/>	89	人生の思索	嫌われる勇気
<input type="checkbox"/>	90	人生の思索	日本の真髓 量子力学から見た天壤無窮の真実
<input type="checkbox"/>	91	人生の思索	モモ
<input type="checkbox"/>	92	人生の思索	車輪の下
<input type="checkbox"/>	93	人生の思索	転換期を生きるきみたちへ
<input type="checkbox"/>	94	人生の思索	アルケミスト 夢を旅した少年
<input type="checkbox"/>	95	人生の思索	羊をめぐる冒険
<input type="checkbox"/>	96	人生の思索	沈黙
<input type="checkbox"/>	97	人生の思索	四畳半神話大系
<input type="checkbox"/>	98	人生の思索	渡辺のわたし 新装版
<input type="checkbox"/>	99	人生の思索	重力の虹
<input type="checkbox"/>	100	人生の思索	何者
<input type="checkbox"/>	101	人生の思索	氷壁(井上靖小説全集 13)
<input type="checkbox"/>	102	人生の思索	地下室の手記
<input type="checkbox"/>	103	人生の思索	燃えよ剣
<input type="checkbox"/>	104	人生の思索	斜陽
<input type="checkbox"/>	105	人生の思索	星新一 一〇〇一話をつくった人

## 当会について

自由研究サークル なんでも総合研究所は旧称:文書研究会として、『広島大学文化・芸術系サークルの歴史』の調査を目的に 2010 年に発足した比較的新しいサークルです。その後はゆかたまつり・大学祭での展示を主な活動として、他に 2 週間に一回の定例会を行い、会員が自由に研究・調査をしています。

調査対象にこれといった決まりはありません。

興味を持ったこと、不思議に思ったこと、ふと思いついたこと...、歴史、地誌、文化、言語、オカルトからサブカルチャーまで、調べてまとめてみたいと貴方が思えば、それは当会の調査対象です。

1 年生から博士課程の方まで、学年・学部を問わず大歓迎です。

読書好きな貴方へ。物を調べるのが好きな貴方へ。新しいことを知ることが好きな貴方へ。そんな趣味を共有し、発表できる場がココにはあります。

大学であなたも自由研究をしてみませんか？

### 広島大学 自由研究サークル なんでも総合研究所

場所:サークル棟 1 階 BOX

Web ページ(QR コード→)

<http://hunir.html.xdomain.jp/>

Twitter

広大 自由研究サークル なんでも総合研究所(@HU\_NIR)

※最新の予定は Twitter でご確認ください。

